

事項一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件

七九一 一月八日 在英国外務大臣宛(電報)

日本ト極東共和国トノ通商再開ニ関シ莫斯科
電信報道ノ件

第二九号(情報) (一月十日接受)

(一)「モスコ」電信ハ過激派ハ日本及極東ノ通商関係ハ遠カラズ無制限ニ再開セラル可ク之ニ関シ数個ノ条約既ニ調印済ナリト報道セル旨七日付「モーニング、ポスト」「ストックホルム」特電ニ見ユ

二、「アルメニア」軍隊ハ Eriyan ノ過激派ニヨリテ解散セラレ過激派式軍隊ヲ組織スルノ目的ヲ以テ三百名ノ「アルメニア」士官ハ訓練ノ為「モスコ」ニ送ラレタリトノ報道アリ

七九二 一月十三日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国側ヨリ物資買付等ノ為商務官一行

リ右ハ勞農政府ガ通商開始問題ニ関シ日本ヲ利用セントスルノ宣伝ナルベク極東共和国トノ関係ハ其政府施政ノ誠意アルヤ否ヤニヨリ左右セラルベキモノナリ右可然発表セラレタシ

七九四 一月十八日 極東共和国外務大臣ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ西比利亜撤兵日本軍ノ露国内政不干渉
極東共和国ノ外交使節接受方ニ付提案ノ件

(チタ一月十八日午後六、五〇着
東京同 二十日午前八、五〇着)

一九二一年一月十八日チタニ於テ

極東共和国外務大臣クラスノスチヨコフ

日本帝国外務大臣殿

日本帝国政府ハ其軍隊ニ対シ露国極東領土ノ占領ヲ命ズルニ当リ一九一八年八月二日ノ宣言ヲ以テ露国人民並世界ニ対シ此非常手段タルヤ単ニ「チェックスロヴァック軍ニ援助ヲ与ヘンガ為ニシテ露国及露国民ニ対スル純粹ナル友情ニ基ク既定ノ政策ハ之ヲ保持スベク又露国領土権ハ之ヲ尊重シ露国政府ノ内政ニハ一切干渉スルコトナカルベシ」ト

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件 七九四

ヲ渡日セシメ度旨申出ニ付請訓ノ件

第一六号

(一月十五日接受)

一月十三日「ツェトリン」来訪「クラスノスチヨコフ」来電ニ依レバ「チタ」政府ハ日本ニ於テ各種物資ノ買付其他ニ從事セシムル為商務官一行ヲ日本ニ渡航セシメタキ希望ナル処日本政府ハ右一行ノ入国ヲ許可セラルルヤ至急御問合アリタシト申出デタリ就テハ右ニ対スル回答振御電示ヲ請フ尙「ツェトリン」ハ右一行ノ氏名ハ未ダ明カナラザルモ主義上日本側ノ承諾ヲ得バ直チニ一行ノ氏名「チタ」ニ問合ハス可シト附言セリ

七九三 一月十四日 内田外務大臣ヨリ
在英国外務大臣宛(電報)

日本及極東共和国間通商再開ニ関スル莫斯科
電信ハ事案無根ナル件

第一八号

貴電第二九号(1)ノ「モスコ」電信ハ目下ノ処事實無根ナ

明カニ宣言セリ又右宣言ハ上述ノ使命終了即チ「チェックスロヴァック」軍ノ撤退完了ト同時ニ日本軍隊ハ無条件ニ露国領土ヨリ撤退スベキ旨明瞭ニ記述シ居レリ

而シテ「チェ」軍ノ撤退ハ一九二〇年八月中首尾克ク完了シタルガ右撤退完了ノ久シキ以前即一九二〇年三月三十一日付宣言ヲ以テ日本帝国政府ハ「日本帝国ガ西比利亜ニ対シ地理上如何ナル他国ヨリモ最モ密接ナル関係ニアリ且極東ニ於ケル政治状態ハ在西比利亜邦人ノ生命財産ノミナラズ滿鮮ニ於ケル平和ヲ脅威スルモノナルニ因リ乍遺憾極東領ヨリ其軍隊ヲ撤退スルコト不能ト思惟ス然レドモ日本政府ハ極東領ニ其軍隊駐屯セシムルトモ右ハ何等露国ニ対スル侵略ヲ意味スルモノニ非サルコトヲ茲ニ再言シ且該領土内ニ平和樹立ノ曉ニ於テハ日本軍隊ハ即時撤退スベキコトヲ誠意声明スルモノナリ」ト叙述シ居レリ

右ト同一ノ声明ハ五月十一日付並九月十八日付派遣軍司令官大井大將發極東共和国外務大臣宛書柬中ニ於テモ反覆記述セラレ居レリ即チ同司令官ハ極東ニ於ケル各分離シタル地域ノ統一ハ畜ニ露国民ノ利益タルノミナラズ又各国民間ノ經濟關係確立ノ前提条件トモ認ムベク從テ迅速ニ右統一

ノ實現セラルルコトヲ誠意希望スルモノナル旨叙述シ居レリ又大井大将ハ五月十一日付宣言中ニ於テ左ノ言ヲ為セリ「日本軍司令官ハ極東露領ニ於テ安固ナル状態確立セラルルニ至レバ喜ンデ露領ヨリ其軍隊ヲ撤退スベク又司令官ハ露国人民ノ意向ニ鑑ミ較モスレバ之ヲ無視スルカ如キ露国個人ニ援助ヲ与ヘ以テ同地域内ニ於ケル政況ヲ紛糾セシムルカ如キコトヲ欲スルモノニ非ス而シテ極東領ニ於テ善ク人民ノ意思ニ合致スルカ如キ政府樹立セラレンコトハ日本軍司令官ノ露国民ト共ニ衷心歡迎スル所ナリ」尙同宣言ハ率直ニ「上述ノ次第ハ独リ日本軍司令官ノ希望タルノミナラズ日本政府並国民ノ希望ナリ」ト附言シ居レリ

露国民ハ数多ノ自称救済者ニ失望シタルヲ以テ彼等自ラ統一ヲ期シ何等外人ノ要求ニ基カズシテ全極東露領ニ於テ自由ニ人民ノ意思ヲ発表スルコトヲ可能ナラシムルカ如キ制度ノ樹立スルコトニ決セリ

依テ全人民ノ委任ヲ受ケタル代表者等ハ一九二〇年十月二十九日「チタ」ニ会合シ独立宣言日即チ同年四月六日ニ遡リテ全極東領土ガ單一ナル自治極東共和国ニ合一シタル旨嚴肅ニ宣言シ該宣言ニ依リ安寧秩序ヲ維持シ且凡ユル社会

共和国内ニ居住スル幾多ノ多国人ハ内国人同様ノ權利ヲ享受シ彼等ノ生命財産ノ安全ナルコト他ノ文明国ニ於ケルト何等選フ所ナシ

以上所陳ノ事實ヲ綜合シテ考察スルニ日本軍力此ノ上露領ニ来リ駐屯スルコトハ不当ナルノミナラズ絶対ニ有害ナルヲ以テ外務次官「コゼウニコフ」ハ極東共和国政府ノ命ニ依リ極東領ヨリ日本軍ノ迅速撤兵スルコトノ緊急必要ナルコトヲ在浦塩日本外交使節ヲ通シ日本帝国政府ニ率直ニ申入レタリ尙極東共和国ト日本帝国政府トノ間ニハ平和的交渉ニ依リ解決シ得サルカ如キ問題一モ之ナキヲ確信スルガ故ニ我政府ハ相互利益ノ為經濟關係開始並恒久的修交条約締結ノ目的ヲ以テ日本帝国政府ト交渉ヲ開始スルノ所存アルコトヲ通告セリ

然ルニ日本軍ハ依然強圧的ニ共和国領土ノ一部分ノ占領ヲ持續シ為ニ之等被占領地居住人民ノ生活ヲシテ堪ヘ難カラシム

他方ニ於テ日本軍駐屯ノ事實及日本軍ガ累次ノ宣言ニ反シ交通ヲ妨害シ且露国人民及其ノ政府ノ機關ニ於テ秩序ヲ恢復セントスルノ企圖ヲ阻止スルコト等ヲ利用シ不良分子等

的勢力ノ平和的発達ヲ齎ス為政府建設ノ基礎タルベキ確乎タル根本原則ヲ設定セリ尙同會議ニ於テハ憲法會議開催ニ関スル法律ヲ制定シ且人民ノ意思ヲ實現スベキ政府形成セラレタリ凡テ之等ノ嚴肅ナル宣言類ハ機ヲ失セズ之ヲ公表シ以テ全世界ニ知悉セシメタリ

極東共和国建設セラレテヨリ既ニ二ヶ月ヲ經過シ今ヤ同政府ハ十月二十九日ノ宣言中ニ指摘セシ道程ヲ着々進ミツツアリテ憲法制定會議會員選舉又終了セリ人民代表者ハ十日以内ニ極東共和国首府ニ会合シ共和国憲法ノ制定並新政府ノ重要問題決定ニ付議スル所アルベシ統一以前或地方ニ於テ尙存セシ不穩状態モ自然ニ平靜ニ歸シ人民全般今ヤ破壞状態ヲ復旧シ平和的生活及労働ヲ求メンガ為ニ奮勵シツツアリ他方浦塩国民會議ハ干涉ニ基ク異常ニ困難ナル事情ノ下ニアリテ日本軍司令官其參謀長並外交使節等ノ各種ノ通牒及暗々ノ威嚇ニ不拘逐ニ絶對大多數ヲ以テ極東共和国ヲ承認セリ之等ノ事タル全ク我人民ノ統一冀望並干渉排斥熱望ノ結果ニ外ナラサルナリ

干渉ヲ受ケザル極東共和国領土内ニ於テハ安寧秩序完全ニシテ又生活自由労働及凡テノ人民ノ財産ハ絶對ニ安全ナリ

ハ種々ノ陋劣行為ヲ行ヒツツアリサレハ被占領地域内ニ在ル露国ノ都市村落ハ恰モ盜賊殺人其他名状シ難キ罪惡ノ毒瓦斯ヲ以テ包圍セラレツツアルニ同ジ

烏蘇里鐵道沿線「グロデコウ」駅ニ於ケル兇漢等ハ列車ヲ停止シテ旅客ヲ搜索シ其携帶品ヲ奪ヒ又旅客ヲ毆打シ時ニハ之ヲ何処ヘカ拉去スルコトアリ之等ノ兇漢ハ賃金ヲ支払ハズシテ列車ニ搭乘シ又鐵道業者ニ強ヒテ特別機關車ヲ要求シ之ニ応ゼザレバ機關車ヲ列車ヨリ取外シ居レリ(グロデコウ駅ニ於ケル十一月二十八日ノ事件)彼等ハ又露国人並外人乗客ヨリ銀類其他ノ携帶品ヲ横奪スルコト恰モ白昼大道ニ於ケル強盜ニ異ナラズ地方官憲ハ日本軍司令官ノ地方官憲ニ對スル反對並安寧秩序ノ敵ニ對スル同情ノ為秩序ヲ樹立スルコト不可能ナリト為シ居レリ司法官憲ガ之等兇賊ヲ討伐シ秩序ヲ樹立セントスレバ日本軍司令官ハ武力ニ依リ之ヲ防グ之レ明カニ人民自決ノ權利ヲ侵害スルモノナリ

日本軍司令官ノ之等兇賊ニ對スル同情ハ「セミヨノフ」ヲ其保護ノ下ニ置キタル時最能ク証明セラレタリ兇賊ニシテ人民ノ敵タル彼ヲ全露国人並外人ヲ無視シ旧沿海州政府

ノ無能力ヲ罵ル如ク公然同政府ニ之ヲ通告シ日本軍護衛ノ下ニ自由人民ノ感情ヲ威嚇シ旅順ニ送レリ此兇漢ハ今次命令ヲ発シ春期ニ於テ更ニ新運動ヲ試ムベキヲ約シ且公然日本ガ現在彼ニ援助ヲ与ヘ居ルノミナラズ将来亦然ルベキ旨ヲ公言シ以テ人民ヲ驅テ反日感情並旧怨ヲ起サシメ居レリ之レ明カニ善隣關係ノ樹立ヲ妨害スルモノナリ

日本軍司令官ハ鉄道使用人ニ俸給ヲ支払フ為赴ク主計官乗車ヲ列車ニ連結スルコトヲ許サズ又貨物ノ運輸ヲ妨害ス如此ハ即最露骨ニ極東共和国ノ内政事項ニ干渉スルモノト云ハザルベカラズ尙又同司令官ハ近時共和国ノ一部トナリタル前「ウェルフネウジンスク」政府ノ軍事外交使節書記官ノ乗車ヲ停止シ同書記官ノ身辺並其列車ヲ搜索セントセリ是レ國際慣例ニ依リ樹立セラレタル外交官ノ特權ニ関スル原則ヲ侵害シタルト同時ニ凡テノ日本官憲ノ宣言ハ単ニ空言ニ過ギサルコトヲ人民一般ニ表示シタルモノナリ

日本軍側ニ於ケル之等ノ行為ハ露國人ノ胸裏ニ日本政府宣言ノ誠実如何ニ対シ疑惑ノ念ヲ起サシメ彼等ヲシテ警戒セシムルニ至レルコト云フ迄モナシ

我人民ノ委任ニ遵ヒ且貴我兩國民間ニ於ケル善隣關係樹立

ル所ナリ

註 右ハ英文ノ原文ニ基キ日本外務省保官ニ於テ作成セル仮訳文ナリ

七九五 一月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮菊池政務部長宛（電報）

極東共和国商務官ノ渡日ハ当分見合セラレ度

旨回訓ノ件

第一七号

貴電第一六号ニ関シ

「チタ」政府トノ通商開始ニ付テハ尙考慮ヲスル点アルニ付商務官ノ渡来ハ当分見合ハシムル様致シタシ

七九六 二月二十三日

在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

チタ政府ハ諸般ノ商工事務ヲ浦潮ニ於テ行ハ

ントシツツアル旨報告ノ件

第一〇三号

（二月二十三日接受）

齊多政府ハ幾度トナク我外交代表者商務官乃至利權請願邦人ノ齊多行ヲ懲瀆シタルモ更ニ其ノ効果ナカリシノミナラズ却テ利權問題ノ如キ当地ニテ解決申出デタル向モアリタ

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望關係一件 七九五

七九六

八二一

ノ希望ニ基キ同時ニ貴国政府ノ对外政策モ亦同一希望ニ基クモノナルコトヲ確信シ極東共和国政府ハ兩國間及兩國人民間ニ平和關係ヲ樹立スル為左記事項ヲ必要ナリト思惟ス第一浦塩日本派遣軍司令官ハ其部下ノ行動ニ関シ極東共和国ノ内政事項ニ絶對ニ干渉ノ原則ヲ遵守シ国内政争渦中ニ在ル各派ニ幫助ヲ与フルコトヲ防止スベキコト（此点ニ関シ「グロデコウ」ノ不逞団ニ幫助ヲ与ヘタル実例アリ）

第二今ヤ共和国内平静ニ帰シ且鞏固ナル政府樹立セラレタルノ事実ニ鑑ミ日本政府ニ於テ極東共和国領土ヨリ日本軍撤退ノ確定時期ヲ定ムルハ正ニ適當ナル時機ナリ

又現今極東共和国領土内ニ日本外交使節在ルノ事実ニ鑑ミ共和国政府ハ貴我兩國間相互利益並友情ヲ目的トスル条約ノ基礎ノ上ニ速ニ政治的並經濟的の關係ヲ樹立スルノ目的ヲ以テ相互主義ニ依リ日本帝國政府ニ於テ果シテ東京ニ駐劄スベキ我政府ノ外交使節ヲ接受スルニ同意セラルベキヤ否ヤヲ承知致シタシ

以上ハ久シク希望サレタル兩國民間ノ相互了解並平和の善隣關係ノ日ノ到来ヲ促進スルモノナルコトハ吾人ノ確信ス

ルニ願ミテ以テ先ヅ齊多政府代表者會議（往電第九九号參照議長ハ「セレヨジニコフ」曾テ「クラーシン」ニ隨行倫敦ニ赴キシコトアリ）ヲ当地ニ設ケテ諸種ノ重要ナル事務ヲ取扱ハシメ「レオーノフ」ヲ最高經濟會議ノ当地代表者タラシメ州庁農務部附屬林務委員會ヲ公認シテ其ノ意見ヲ援用スルコトトシ更ニ近ク「クラスノンチヨコフ」ノ信任篤キ外務次官「コゼウニコフ」ヲ再び当地ニ特派スルコトトナシ之ニ代リ予テ当地方ノ事情ニ通セル前浦潮政權外交部長「スクウイルスキー」ヲ外務次官トシテ齊多ニ殘ラシムルコトトセリ即チ從來万事齊多ニテ審議決定スルノ方針ナリシヲ改メテ成ルベク当地ニ於テ審議決定シ唯最後ノ承認ヲ齊多ヨリ得ルコトトスルニ至レリ「セレヨジニコフ」「レオーネフ」自身モ右ノ意見ヲ洩シ居タリ又「スクウイルスキー」カ齊多ニハ智識階級之キ為執務上多大ノ不便ヲ感シ居レリト語リシニ徵スルモ智識階級ガ彼地ニ赴カザル今日齊多ハ已ムヲ得ズ次第二当地ニテ諸般ノ商工事務ヲ行フニ至ルモノト觀察シ得ベシ從ツテ單ニ齊多ノ実情憲法會議ノ模様等視察ノ為政務部員又ハ領事館員出張ノ件ハ其ノ必要アルベキモ利權其ノ他ニ関スル普通交渉事務ノ如キハ

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件 七九七

当地ニ於テ行ヒ得ルニ至ルベク又我方トシテ現下ノ交通々
信情報ヲ以テシテハ成ルベク齊多ヲ当地ニ引出スノ方針ニ
出ツルコトモ得策且便利ナリト思考セラル

七九七 三月十日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヤクトスカヤ州カムチャツカ州ハ労働政府領
域トスル協定成立セル旨コゼウニコフ談話ノ
件

第一三八号 (三月十一日接受)

三月十日「コゼウニコフ」ノ語レル所ニ依レバ客年十二月
三十日極東共和国「ソヴィエト」政府間ニ境界画定協定成
立シ「ヤクトスカヤ」州ハ勿論「カムチャツカ」州モ「ソ
ヴィエト」政府ノ領域ニ入レリト、境界ニ関シテハ委細郵
報スベキモ右ハ漁業問題ニ関係アルハ勿論予ネテ「カムチ
ヤツカ」地方ニ於テ利権請願運動ヲ為シ居レル邦人(久原
ノ如キ)ハ将来「ソヴィエト」政府代表者ト交渉セザルベ
カラザル次第ニ付右電報ス

七九八 三月十二日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ニハ不明ニシテ我方ヨリ云ヒ出スコトハ事実不可能ナリト
述ベ日本軍現在ノ儘ニテ通商問題ニ関シ交渉ニ応ゼラルル
ヤト問ヘルニ付本官ハ通商問題ノ交渉ハ敢テ撤兵セザレバ
之ヲ行フ能ハズト思考シ居ラズ又撤兵ハ帝国政府累次ノ声
明ニ基キ政状安定シ外国臣民ノ生命財産保障セラレ朝鮮ニ
対スル脅威除去サルルニ至レバ実現スベシト思考スト答ヘ
置ケリ会谈中彼ハ常ニ不得要領ナル事ノミ語リ我方ヲシテ
是非何等カ具体的提案ヲ出サシメントスルノ態度ヲ持シ彼
ニハ格別成案アルモノニハ非ザルモノノ如ク而シテ今回ハ
表面何等カ交渉問題ヲ携ヘ来レル如ク装ヒ居ルモ右ハ体裁
ニシテ其实ハ只宣伝画策ノ為来浦セルモノト見ルヲ当レリ
トスルガ如シ彼ハ三月十日会見ノ際金貨約五万留ヲ齊多ヨ
リ持参哈爾濱ニ残置セリト語り居タルガ其他ニモ種々宣伝
費ヲ持参セルモノノ如ク觀察セラル從ツテ往電第一三九号
妻子ノ本邦經由上海行ハ宣伝資金ニテモ携行セントスルニ
ハ非ザルカト思考セラル右参考迄ニ杉野、郡司、松島へ郵
送シ置ケリ

七九九 三月二十五日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件 七九九

八二二

通商及西比利亞撤兵問題ニ関スル交渉開始方
ニ付チタ政府外務次官コゼウニコフヨリ重ネ
テ申出ノ件

第一四〇号 (三月十三日接受)

往電第一三八号ニ関シ三月十一日「コゼウニコフ」ハ「ウ
ドスキー」郡北部「マジキリンダ」岬「キラシ」河ヨリ以
北ノ勘察加州(半島及島嶼一切ヲ含ム)ハ「ソヴィエト」
露西亞ノ領域ナリ「ソヴィエト」露西亞ハ同地方ニ於ケル
外国放資ヲ歡迎スルコト敢テ我共和国ニ譲ラザルベシト語
リタル後「今回齊多政府ハ自分ヲ特派シテ本官ト通商撤兵
其他問題ニ付交渉セシムルコトトナシタルモ貴方ニ於テ一
切之ヲ回避シ居レルニ付将来ノ成行ニ関シテハ全然其ノ責
貴方ニアルモノト云ハザル可カラズ」ト云ヘルニ依リ本官
ハ「貴方ヨリ何等カ具体的提案ヲ差出サレタルニ我方ガ之
ヲ回避シタル儀ナレバ伊ザ知ラズ当方ハ未ダ回避ヲ為シ得
ベキ何等提案ヲスラ受ケ居ラズ我方ニ於テハ本官ヨリ累次
申シタル通貴方ヨリ具体的提案アルニ於テハ何時ニテモ之
ヲ審議スルノ所存ナリ」次デ彼ハ我政府ハ撤兵ヲ熱望スル
処撤兵ト交換ニ如何ナルコトヲ貴方ヨリ希望セラルルヤ我

日本政府ノ公式代表ヲチタニ派遣サレ度旨コ
ゼウニコフ外務次官ヨリ申出ノ件

第一六六号 (三月二十六日接受)

三月二十五日「コゼウニコフ」ハ「ツェトリン」立会ノ上
左ノ通り島田ニ内々トシテ申出デタリ
英国ハ已ニ「ソヴィエト」露西亞ト通商ヲ開始スルコトト
ナリ伊太利又条約ヲ締結セリ此際独リ日本ガ共和国ト親善
関係ニ非ザルハ真ニ遺憾トスル所ナリ(不明)日本外務当
局中ヨリ公然人ヲ齊多政府ニ派遣セラレンコトヲ望ム憲法
議會ハ已ニ「クラスノ」政府ヲ承認支持スルコトトナリタ
ルニ依リ人ヲ派遣ストセバ憲法議會ニ宛テズシテ政府ニ宛
テザル可カラズ又公然ノ派遣ニアラザレバ三宅少佐同様ノ
状態トナリ充分ノ特典ヲ附与スル能ハザル可シ余ハ此ノ際
(不明)森林払下ゲニ関スル請願ヲ解決セントス又其ノ他
ノ利権ニ関シテモ目下英米ハ盛ニ交渉中ナレバ日本側ハ悔
ヲ後日ニ貽サザル様セラレタシ云々

右憲法會議ノ政府ヲ承認支持云々ニ関シテハ確タル証拠送
付方依頼シ置キタリ尙英米人ガ「コゼウニコフ」(脱)ニ
出入シ居レルハ事実ナルモ果シテ斯ノ如クナルヤ俄ニ信ジ

八二三

難シ

ハ〇〇 四月十三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

日本軍ノ西比利亞撤退並平和の關係及正式国
交樹立ヲ求ムル極東共和国憲法會議ヨリ日本
国政府宛書写送附ノ件

附屬書 四月十一日附在中国極東共和国使館団長ヨリ小

幡公使宛書翰写

右覽書写送附ノ件

機密第一一六号 (四月十九日接受)

大正十年四月十三日

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

極東共和国代表「ユーリン」ヨリ來翰写送付ノ件

(関係電報、往電第二九二号)

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類要目

I avail myself of the opportunity to renew to Your
Excellency the assurance of my highest consideration.

President of the Mission of the

Far Eastern Republic to China. (Sgd.)

Second Secretary (Sgd.)

His Excellency

Yukichi Obata,

Envoy Extraordinary and Minister

Plenipotentiary of the Imperial

Japanese Government to China.

(別紙)

極東共和国憲法會議ヨリ日本国政府宛書翰写

FAR-EASTERN REPUBLIC

MINISTRY FOREIGN AFFAIRS

MISSION TO CHINA

TO THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

In the early part of August 1918 the Japanese
Imperial Government issued a declaration to the
Russian people in which it was said: "The Govern-

大正十年四月十一日附「ユーリン」來翰及附屬「チタ」憲
法會議ヨリ日本国政府宛書翰写

本信写送附先

哈爾賓、菊池政務部長

(附屬書)

四月十一日附在中国極東共和国使館団長「ユーリン」ヨリ小幡公使

宛書翰写

FAR-EASTERN REPUBLIC

MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRES

MISSION TO CHINA

No. 341/c

Peking, April 11, 1921.

Monsieur le Ministre,

Acting under the instructions of my Government
I have the honour to forward herewith a copy of the
memorandum of the Constituent Assembly of the
Far Eastern Republic addressed to the Imperial
Japanese Government, which I beg you to transmit
to your Government in Tokyo.

ment of the United States recognizing the seriousness
of the situation, has lately addressed the Japanese
Government asking it for prompt despatch of troops
in order to relieve the position of the Czecho-Slovak
forces. In order to meet the wishes of the American
Government and to cooperate with the Allies in this
expedition, the Japanese Government has decided to
make immediate preparations for the despatch of
the necessary troops. A number of troops will be
immediately sent to Vladivostok. Although choosing
this course of action, the Japanese Government,
nevertheless, remains firm in its desire to maintain
its friendly relations with Russia and her people and
confirms its declaration of the policy to respect
the territorial integrity of Russia and to refrain
from interfering in the Russian domestic policy.
Furthermore, the Japanese Government declares
that after having accomplished the above task it
will immediately withdraw its troops from Russian

territory.” It would appear from this declaration that with the departure of the Czecho-Slovaks the Japanese forces should also have gone. However in the declaration of the Japanese Government made on August 13, 1918, only a few days after the solemn declaration of Japan referred to above was issued, additional reasons were given to justify the despatch of Japanese troops; the Soviet troops, at the head of which, in accordance with the information which reached Japan were Austrians and Germans, were a menace to Japan and China. In the declaration of March 31, 1920, at the time when the Czecho-Slovak evacuation had been completed, the new reasons given in the declaration of August 13, 1918, appeared with much greater emphasis. The Czecho-Slovak question became a matter of secondary importance and the considerations with regard to the alleged menace to Korea and Manchuria, and the fact of Siberia being close to Japan were brought out to the fore-

ground. In this declaration nothing was said definitely about the withdrawal of the Japanese troops after the evacuation of the Czecho-Slovaks. It was stated only that the Japanese troops would be withdrawn from Siberia and Transbaikalia as soon as possible, after the evacuation of the Czecho-Slovak forces had been completed. At the same time was announced the occupation of the Russian part of Saghalien, on the ground that there were no legally constituted Russian authorities with whom it was possible to negotiate for a settlement of the Nikolaevsk affair. The evacuation of the Japanese troops from the Habarovsk district was announced on September 18, 1920. In the declaration signed by General Oi, the Commander in Chief of the Japanese forces in Siberia, it was said: “I want to express my sincere wish for an early union of the Russian Far East which will secure peace and prosperity to the people and will strengthen the friendly neighbourly

relations between the Russian and Japanese peoples.” The same wish has been repeated in all the statements and declarations of the Imperial Japanese Government and Japanese Command made since August 1918. The Constituent Assembly wants to sum up the present situation in the following words.

Russian Saghalien has been occupied. The Maritime Province occupied by Japanese troops no longer resemble Russian territory, for the Japanese Command is conducting itself as if the Japanese and not the Russians were the masters of that territory. The Maritime Province under the control of the Japanese, is the only district in the territory of the Far Eastern Republic where the remnants of the criminal counter-revolutionary bands of Semenov, are murdering and robbing the peaceful population. In the Maritime Province the Government of the Far Eastern Republic and the district authorities cannot control the affairs of the Russian people; they cannot

ship food, goods or cars outside of the area occupied by the Japanese troops. The population of other parts of the Far Eastern Republic is therefore suffering from lack of food and clothing. Trains are searched and even cars in which representatives of the Russian authorities are riding are detained if the Japanese Command thinks fit.

The latest notes sent by the Japanese Consul General to the authorities of the Maritime Province with regard to the fisheries, invoke a sad comparison between the actual facts of life and the Japanese declarations. With great pain does the Constituent Assembly think of the events of April 4 & 5, 1920, and of the numerous innocent victims which fell as the result of the Japanese intervention. The Constituent Assembly is constrained to state that the presence of the Japanese troops in Siberia, which aggravated the Russian people, was responsible for those events. The representatives of the people of

the Russian Far East solemnly declare that any aggressive designs with regard to Japan, Korea and Manchuria, are foreign to the minds of the Russian people. The people of the Russian Far East wish to establish and strengthen peaceful relations and look forward to the resumption of trade relations to the mutual advantage of the two countries. The Constituent Assembly states with great regret that even the people of those parts of the Russian Far East which have been freed from foreign intervention cannot go on with their peaceful labour and cannot establish permanent order, because the presence of the Japanese troops in Russian territory rises their suspicion and makes them uncertain of the future. Notwithstanding all the difficulties and obstacles, the Russian Far East has been united into the Far Eastern Republic. The latter has been declared a democratic State, the foundations of which are the principles of civil rights, the direct, equal

and secret ballot, and the inviolability of private property both of Russian and foreign citizens residing within its territory. The sovereignty in the Republic belongs to the people, who are firmly convinced that the only solid basis for freedom and independence is peaceful neighbourly relationship with other countries.

If we recall that the Czecho-Slovak forces have long since evacuated Siberia, then according to the statements made by the Japanese Government there is no reason why the Japanese troops should remain longer in the territory of the Far Eastern Republic. The time has come for the Japanese Government to prove that, when sending troops to Russia in 1918, it did not intend by taking advantage of the temporary weak position of the Russian people due to the war, the disorder which followed it, and the revolution, to seize Russian territory. A great historical moment has come for the Japanese Govern-

the Far Eastern Republic.

The Constituent Assembly expresses the hope that in the near future the Japanese Government, having desisted from intervention in Russian affairs, will accord recognition to the Far Eastern Republic and enter into formal relations with it.

For the Constituent Assembly of
the Far Eastern Republic.

(Signed) Shiloff,
President.

(Signed) Suchovy,
Secretary.

Authenticated by Koczhevnikoff, Assistant Minister of Foreign Affairs, of the Far Eastern Republic.

True Copy:

Secretary of the Mission
the Far Eastern Republic to China.

Peking, April 11, 1921.

~~~~~

ordinary occupation, shall exist between Japan and

ハ〇一 五月十三日 閣議決定

極東共和国トノ非公式交渉ノ開始ニ付我方ノ  
執ルベキ方針ニ関スル件

「セレンガ」河以東ニ極東共和国建設セラレ其版図内ニ於テハ有産民主制ヲ確実ニ行フベキコトヲ宣明セルコト其他露西亞全部ノ現状及四囲ノ形勢ニ鑑ミ帝國政府ハ速ニ極東共和国側ト通商問題商議ノ形ニ於テ非公式交渉ヲ開始シ一面露國側ニ対シ物資輸入ノ便ヲ与フルト同時ニ他面極東ニ於ケル政情安定及帝國ノ利益進捗ノ為メ左記方針ニ從ヒ措置スルヲ緊要ト認ム

一帝國政府ハ不取敢浦塩ニ外交官ヲ派遣シ極東共和国政府代表者ト接触セシメ其結果交渉開始ニ便宜ナリト認ムルトキハ左記条項ヲ提示シテ同政府ノ承認ヲ求メ同政府ニシテ之ヲ承認セバ從來屢々帝國政府ガ駐兵理由トシテ声明セル滿鮮ニ対スル脅威ト居留民及交通ノ安全ニ対スル不安トカ除去セラレ自衛ノ為駐兵スルノ必要無キニ至ルヲ以テ沿海州及北滿洲ヨリ撤兵シ又露西亞側ニ対シ通商ノ便宜ヲ計ルコト

(一)「セレンガ」河以東ニ極東共和国ノ既ニ声明セシ有産

民主制度ヲ確実ニ行フコト

(二)絶對的ニ朝鮮及日本内地ニ過激派ノ宣伝ヲ為ササルノミナラズ極東共和国領土内ニ於ケル鮮人等ノ朝鮮統治ヲ乱サントスル不逞行動ヲ防正スル措置ヲ執ルコト

(三)帝國ノ條約上ノ權利及帝國臣民ノ生命財産並既得權ヲ尊重スルコト(漁業權及邦人ト浦塩、「チタ」等ノ地方政權トノ契約ヲ含ム)

(四)一般外國人ノ為ニ出入國、居住、營業、産業、交通及沿岸貿易ノ自由ヲ与ヘ並土地所有權又ハ永租權ヲ許スルコト

(一記註外欄)  
(五)千八百五十八年愛瑯條約ニヨリ閉鎖セラレタル黑竜江及松花江ノ航行權ヲ一般外國人ニ開放スルコトヲ承認シ右趣旨ニ依リ支那ト交渉スルコト

(六)要塞的設備ハ之ヲ撤廃シ且帝國ヲ脅威スル如キ軍事的施設ヲ為サザルコト

(七)浦塩ヲ純然タル商港ト為シ貿易ヲ阻害スル施設ヲナサザルコト

(二記註外欄)  
(八)極東共和国政府ガ客年末勞農政府ニ讓渡シタル領土(勸察加州其他)ヲ復旧スルコト

ハ〇二 五月十七日 在浦潮菊池政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

チタ政府ハ日本軍駐屯ノ儘日本ト通商開始ノ

交渉ヲ為シ難シトツェトリン談話ノ件

第二七三號 (五月十七日接受)

五月十二日發刊浦潮日報ニ大阪朝日所報トシテ帝國政府ハ九ヶ条ノ條件ヲ提出シ極東問題ヲ解決セントスルノ記事顯ルルヤ痛ク当地ノ人心ヲ刺激シ過般來政變ヲ行ハントテ内密運動中ナリシ「セ」「カ」兩軍殘黨其他ハ予テ我軍幹部ヨリ政變ヲ思ヒ止マルベキ旨注意アリタル折柄日本ノ斯ル齊多接近說ヲ耳ニシ意氣稍々沮喪シタルモノノ如ク之ニ反シテ齊多側ハ氣勢ヲ揚ゲタルモノノ如シ五月十六日部員ガ他用ヲ以テ「ツェトリン」ヲ往訪シタル際同人ハ大要左ノ如ク語レリト云フ

「九ヶ条問題世間ニ伝ハリ居レル処齊多側ハ何時ニテモ日本側ト交渉ヲ開始スルノ準備アリ齊多政府ハ外國ガ主權ヲ侵害スルヲ喜バズ此意味ニ於テ日本軍駐屯ノ事實其モノガ主權ノ侵害ナリトシテ排斥ス日本軍駐屯ノ儘通商開始ノ交渉ヲ為シ得ベシトスルハ不賛成ナリ夜間交通部憲兵等去リ

(九)外交官並武官ノ派遣及其通信確保ニ関スル取極其他通商實施ニ関スル詳細ノ事項ハ別ニ協定スルコト

(十)尼港事件善後問題ハ之ヲ他日ニ讓ルコト

二極東共和国政府ニ於テ前記条項ヲ承諾シタルトキハ直接若ハ時宜ニ依リ該政府ヲ通シ莫斯科勞農政府ニ交渉シテ其諒解ヲ求メ本協定ノ實施ヲ妨害セシメザル様必要ノ措置ヲ執ルコト

三露西亞側ガ本協定ニ違反シタル場合ニハ帝國ハ自衛ノ為必要ト認ムル措置ヲ執ルコトアルベキ旨声明スルコト

註 右文書ノ冒頭余白ニ左ノ記載アリ

「大正十年五月十三日閣議決定(内田外相印)」

「同月十六日東方會議ニ提示済」

(欄外註記)

一 「田」削除、本条ハ条件中ヨリ削除シ我委員ノ手心ニ一任スルコト(内田外相印)

二 「(六)削除、本条ハ条件中ヨリ削除シ我委員ノ手心ニ一任スルコト(内田外相印)」

(右田(六)削除ノ結果内田(六)ヲ田内田(六)トス)

テ単ニ純然タル駐屯軍式ニ改ムルモ不可ナリ齊多内閣ハ「コンセツション」政策ニ依リ日本ノ資本ヲ招致シ同時ニ紙幣発行権ヲ有スル國際銀行設置計画ニ付研究中ニシテ「コンセツション」國際銀行ニ関シ列国トノ關係ヲ顧念スルコトハ齊多側トシテハ日本ノ夫ノ如ク程度強カラス從テ右ニ関シ米、支、英トノ關係ヲ顧ミルコトナク日本トノミ交渉シ得ベシ米國ニ関シテハ自分ハ米國ガ日本軍ト別個ニ撤兵シタル當時極東ニ向ヒテ邁進シツアリシ赤軍ト日本軍トノ衝突ヲ惹起セシメ依テ以テ日露關係ヲ複雑ナラシメントスルニアリシト思考ス「ニキフォロフ」亦爾ク觀察シ居レリ吾人ハ米國ハ常ニ日露ノ關係ヲ疎隔スルニ努力シツツアルヲ忘ルベカラズ吾人ガ日本ト良好關係ニアルハ露國ノ為ニ必要條件タリ最後ニ予トシテ打明ケテ言ハシメバ何モ今日急遽撤兵アリタシト云フニ非ズ此際改メテ日本政府ヨリ撤兵ノ旨ヲ中外ニ声明セラルレバ撤兵ノ実行着手ハ実行上ノ都合アリトテ三、四ヶ月乃至半年ノ後ニセラルルモ敢テ苦シカラズ云々」

スル脅威ト居留民及交通ノ安全ニ対スル不安トヲ除去スルニ必要ナル條件ヲ協定シタル上沿海州及滿洲ヨリ撤兵スルコト

(一) 東支鐵道財政援助ニ就テハ我方单独ニテモ之ニ応ズルノ方針ヲ確立スベク只右我方ノ意図ガ全然交通機能ノ發展ヲ期セントスル經濟上ノ見地ニ基クコトヲ明カニシ列國ノ猜疑ヲ防グ為メ之ガ実行ニ就テハ慎重ナル考慮ヲ加ヘ不取敢滿鉄ト東支鐵道庁トノ交渉ニヨリ借款ヲ起シ其條件トシテ可成南支線軌道改修ニ努ムルコト

(二) 山東鐵道沿線ノ撤兵ヲ断行シタル上更ニ適當ノ機會ヲ捉ヘテ山東鐵道合併案ノ協定ヲ試ミ仍テ以テ漸次山東一般問題ヲ實際ニ解決スルノ方法ヲ講ズルコト

(浦潮ヘ) 哈爾濱ヘ転電アリタシ

(米ヘ) 在墨、南米各公使及「オタワ」ニ転電シ紐育、桑港、「シカゴ」ヘ郵報アリタシ

(仏ヘ) 在欧各大公使ヘ転電アリタシ

(附記)

極東共和国トノ交渉上注意ヲ要スル諸点ニ関スル心得

(五月二十七日欧米局案)

ハ〇三 五月二十日

内田外務大臣ヨリ  
在滿洲池政府部長  
在中國吉田臨時代理公使  
在米田幣原大使  
在仏國石井大使  
各宛(電報)

極東共和国トノ非公式交渉等ノ諸問題ニ関シ

東方會議ニ提示セラレタル政府ノ方針指示事

項通報ノ件

附記 極東共和国トノ交渉上ノ心得

合第一四五号 (極秘)

目下当地ニ於テ西比利亞滿洲山東方面關係文武官會議開催中ノ処外間種々ノ揣摩臆説ヲ伝ヘツツアルモ今次會議ノ目的ハ主トシテ滿鮮支那及西比利亞方面ニ於ケル實際ノ情勢ニ関スル報告ヲ徵スルト同時ニ政府ノ方針ヲ指示セントスルニ在リ殊ニ在外鮮人ノ保護取締ニ関シ此ノ際各關係当局ノ意見ヲモ徵シ具體の方策ヲ確立シタキ所存ナリ尙開會後今日迄ノ指示事項中重ナルモノ大要左ノ通ニシテ何レ確定ノ上ハ更ニ申進スベキモ其レ迄ハ嚴秘ニ附セラレタク不取敢全然貴官限り御含迄申進ス

(一) 極東共和国政府ト通商問題商議ノ形ニ於テ非公式交渉ヲ開始シ從來帝國政府ノ駐兵理由トシテ聲明セル滿鮮ニ對

極秘

一、本交渉ハ我方ニ於テ撤兵ニ決定シタル結果我ヨリ進ンデ交渉ヲ希望スル如キ体裁トナスコトヲ避ケ從來先方再三ノ申出ニ応ジ通商ニ関スル商議ヲ開始スルモノナリトノ体裁ニ於テ交渉ヲ開始スルノ態度ヲ持スルヲ必要トス

一、本件交渉ハチタ政府ノ變態ナルニ鑑ミ普通ノ條約又ハ協定事項ト其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ外務大臣又ハ正式代表者ノ調印ヲ以テ之ガ協定ヲ為スコトハ避クルヲ可トスベク從ツテ其ノ交渉ノ任ニ当ル者ハ何人タルヲ論ゼズ協定ノ調印ハ我方ノ関スル限り浦潮派遣軍政務部長ニ於テ之ヲ為スコト然ルベシ

一、本交渉ニ當リテハ先方ノ同意ヲ求メントスル各種ノ事項ハ之ヲ撤兵ノ條件トスルガ如キ形式ヲ努メテ避クルヲ必要トス我ガ駐兵ノ目的ハ屢々聲明セラレ居ル処若シ一定ノ條件ヲ提出シテ之ニ応ゼザレバ撤兵ヲ実行セズト為スガ如キ形式ヲ採ルニ於テハ露國人ハ勿論列國ニ於テモ我ガ態度ヲ批難シ偶々協定成立シテ撤兵ヲ実行セル後ニ於テモ我ニ對スル惡感情ヲ貽シ邦人經濟發展ニ對スル妨害ト為ル如キ結果ヲ招致スルノ虞ナキニ非ズ從ツテ本件要求ハ單ニ日本

ノ利益ノミナラス同時ニ露国ノ利益ナルコト及日本ニ於テ利益ヲ壟斷スルノ意ニ非ズシテ同時ニ各国ニ対シテモ齊シク利益トナルベキコトヲ諒解セシメテ交渉スルコト然ルベシ

一、「コゼウニコフ」ノ浦潮帰著ヲ俟ッテ我委員ハ同地ニ出張スベク又若シ「コゼウニコフ」ガ容易ニ帰著ノ模様ナキトキハ在浦潮政務部長ヲシテ「ツェトリン」ニ対シ帝國政府ハ「コゼウニコフ」數回ノ申出ニ応ジテ非公式ニ浦潮ニ於テ交渉ヲ開始スベキ旨回答セシメ以テ「コゼウニコフ」又ハ彼以上ノ代表者ヲ浦潮ニ派遣セシムルコト然ルベシ尤モ「ニコリスク」政変ノ状態継続シ浦潮ニ於テモ亦同様ノ政変起ルに於テハ暫ク形勢ヲ傍觀スルカ或ハ他ノ方法ヲ案出スルノ外無カルヘシ

一、閣議決定ノ方針ニ拠レハ北滿ノ撤兵ニモ言及シ居ル処右ハ内部ノ方針ナルヲ以テ特ニチタ政府代表者トノ交渉ニハ之ニ言及スルノ必要ナシト認ム

一、条項第(二)規定ノ宣伝禁止ノ件ニ関シテハ先方ヨリ必ズ相互的ニチタ政權ニ対スル「セメノフ」一派及其他ノ反対運動及宣伝ノ取締方ヲ要求シ來ルヘキ処之ニ対シテハ我方

非ザレハ其ノ実行困難ナリ

註 本件心得ハ内田外務大臣ノ決裁ヲ受ケ其写ハ五月二十八日山梨陸軍次官及立花浦潮派遣軍司令官ニ送附セラレタリ

八〇四 六月七日 在中國極東共和国使節團長代理ヨリ  
在中國小幡公使宛

極東共和国外相ヨリ日本国民及政府宛公文  
ヲ日本政府ニ伝達方在中國同國使節團長代理  
ヨリ依頼越ノ件

附屬書 六月二日附右公文写  
極東共和国及日本國間友好關係樹立ニ関シ日本  
政府ノ意向問質ノ件

Peking, June 7, 1921.

Monsieur le Ministre,

Acting under the instructions of the Government of the Far Eastern Republic I have the honour to enclose herewith a Note addressed to the people and Government of Japan by Mr. Ignatius L. Yourin, Minister of Foreign Affairs of the Far Eastern Republic, transmitted to me by telegraph, and which

ニ於テ之ヲ拒絶スルノ理由無カルヘキヲ以テ之ニ同意スルノ外無カルヘシト思考ス

一、条項(六)ニ規定シアル貿易ヲ阻害スルカ如キ施設トハ從來浦潮港ニ行ハレ居ル輸出入ニ対スル不当ノ制限例ヘハ「ワリュータ」制度ノ如キ、税関手續ノ煩瑣ナルカ如キ倉庫品引出ニ伴フ困難ノ如キ又ハ埠頭労働者ノ不取締ノ如キ其他種々ノ弊害ヲ意味スルモノナルヘキ処是等ニ関シテハ同地領事館ト協議ノ上弊害著シキモノヲ取調ノ上彼我ノ利益ヲ斟酌シ公平ノ態度ヲ以テ交渉スヘシ

一、条項第(七)ニ関シテハ英露通商協約等ヲ参照シ之ヲ取捨シテ立案スヘシ

一、本交渉ノ成行ハ双方ノ同意ナキ限り絶対的の秘密ニスルコト然ルヘシ

一、要スルニ本交渉ハ撤兵後ニ於テ邦人カ出兵前ニ比シ更ニ優良ナル地位ヲ占メテ經濟的發展ヲ為シ得ル如キ状態ヲ作ルコトヲ目的トスルヲ以テ此ノ目的ヲ達スルニハチタ政府及人民ヲシテ成ルヘク日本国民ニ対スル惡感ヲ貽サシメサル様出先官民ニ於テ心掛クルコト最モ必要ナリトス換言スレハチタ政府並人民ヲ敵ト看做スカ如キ考ヲ一掃スルニ

I have the honour to request you to forward to your Government in Tokyo.

I avail myself of the opportunity to assure you, Monsieur le Ministre, of my highest consideration and esteem.

(Signed) Agareff

Acting President of the Mission  
of the Far Eastern Republic to China.

(Signed) M. Kassanin

Secretary.

His Excellency

Yukichi Obata,

Envoy Extraordinary and

Minister Plenipotentiary of the

Japanese Imperial Government to China.

(附屬書)

六月二日附極東共和国外相ヨリ日本国民及政府宛公文写  
極東共和国及日本國間友好關係樹立ニ関シ日本政府ノ意向問質  
ノ件

FAR-EASTERN REPUBLIC,  
MINISTRY FOREIGN AFFAIRS,  
MISSION TO CHINA  
A NOTE ADDRESSED TO THE PEOPLE AND  
GOVERNMENT OF JAPAN.

TO THE MINISTER OF FOREIGN AFFAIRS OF  
THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT.

On May 21, 1921, the officers of the Russian militia at Vladivostok discovered a band of criminals who had arms stored in the house of a Japanese citizen. The militia officers were unable to arrest that criminal band in view of the forcible and wilful interference of the Japanese Gendarmes. The Russian militia had at that time been reliably informed of anti-government uprising being organized at Vladivostok. The Japanese Command, which was aware of these preparations, not only did not prevent the illegal arming of those criminal elements implicated in the

preparations, but on the contrary, on May 26, the day of the uprising, surrounded the militia and the People's Defence Guard and required them to turn over their arms, while no measures have been taken against the outlaw bands. Nor did the Japanese Command prevent the occupation of the government establishments by the agents of Semenov who were set free by the Japanese Command. In short, the conduct of the Japanese Command at this time has not been different from its conduct on March 30, 1921, when an attempt at a coup in Vladivostok was made.

Elected by the Constituent Assembly, the Government of the Far Eastern Republic, fulfilling the will of the people, has tried to restore order over the entire territory of the Russian Far East and to establish friendly relations with all other nations. The Government has adopted every measure to liquidate as early as possible the results of the

disorder inherited by it from the bandits of Semenov who have been condemned by the entire civilized world. Rising against the atrocities of the bands of the atamans, the population of Transbaikalia, which has experienced all the horrors of Semenov's brutality, armed themselves with home-made spears and scythes and expelled Semenov and his bandits.

The difficult financial and economic position which the people of the Far Eastern Republic are now facing demands first of all peace both among themselves and with their neighbours and incessant work of all classes of the population. Acting in accord with the will of the people, the Government of the Far Eastern Republic has first of all tried to bring to an end the civil war. The Constitutional Assembly at Chita, elected on the principle of universal, equal, direct and secret ballot, has by its energetic work established the fundamental laws of the young Republic in which the principles of broadest demo-

cracy are expressed. By these laws the people and the Government of the Far Eastern Republic would have been peacefully guided in the matter of domestic reconstruction if it had not been for the constant interference of the Japanese Command, which enabled the fleeing bands to take refuge in Chinese territory. The Japanese Command has also taken under its protection the bands of Saveleff at Grodekovo and has taken no steps to prevent the flogging of peaceful citizens by these bands or the commission of other forms of violence against the population. At the same time the Japanese Command has hindered the work of the People's Assembly of the Maritime Province in the matter of liquidating the above bands. It is unnecessary to explain and to prove how unfriendly and harmful is such behaviour on the part of the Japanese Command to the people of the Russian Far East. It is now well known to everybody, as I have been informed by one of the members

of the American Mission now at Chita, that disorder in the Far Eastern Republic is evident only where there are Japanese troops, and where there are no Japanese troops one feels as safe as in America.

How much the Japanese Command is trying to maintain order in the Maritime Province can be judged from the fact that acting in the above manner the Japanese Command has itself violated the agreement of April 29, 1920 (which it forced upon the former Vladivostok Government), in spite of its repeated statements that it is strictly observing this agreement. The Government of the Far Eastern Republic wishes to know by which clause of the agreement of April 29, 1920, the Japanese Command had the right to disarm the Russian militia of the Maritime Province? The Government of the Far Eastern Republic can only explain it as utter confusion on the part of the Japanese Command when the bands which were under its protection tried to

sincerely wishes to establish its relations with the Japanese people, not on the basis of the old wrongs committed by the Japanese troops against the Russian people during the intervention, but on the reciprocal readiness of the two countries to establish friendly neighbourly relations based on perfect equality and mutual respect for the rights of the other country. Let the Japanese Government make an honest and frank statement before the whole world of its claims in the Russian Far East, as honest and frank as the statement of the people and Government of the Far Eastern Republic of their desire for peace at home and with their neighbours and for the cessation of military intervention. The Government and the people of the Far Eastern Republic are not only not attempting to evade those questions, but on the contrary are trying to bring about an early settlement of them, and they are not to be blamed if the Japanese Government and the Japanese Com-

commit violence upon the peaceful population and to plunder the national property of the Far Eastern Republic. The Government of the Far Eastern Republic explains it by confusion of the Japanese Command for it cannot here admit an evil design, as such would be a crime and would stigmatize the Japanese Government. Is the Japanese Government unable authoritatively to put an end of such conduct of the Japanese Command in the Maritime Province? Is the Japanese Government going to tolerate a further connection of its Command with the criminal elements? The Government of the Far Eastern Republic will be forced to hold responsible the Japanese Government for the conduct of the Japanese Command, for it does not believe that the orders of the Imperial Government are ignored by the Japanese Command, nor can it admit that the latter is a power independent of the Government.

The Government of the Far Eastern Republic

mand will not choose the open road. And if uprisings recur and blood is shed, let the whole world know that the Japanese Command is inciting them by every possible means and that the Japanese Government is not preventing such activities on the part of its Command. On behalf of the people of the Russian Far East we demand that Japan shall cease interference with our affairs. The Government of the Far Eastern Republic, on behalf of the entire people of the Russian Far East who elected it, requests of the Japanese people and the Imperial Government of Japan a straightforward and definite answer to each of the following questions:

1. Do the Japanese Government and the Japanese people consider just the constant interference of the Japanese Command with Russian affairs against the will of the Russian people of the Far East?
2. Will the Japanese Government continue to help the criminals and brigands of the bands of

Semenoff, Ungern etc., and put obstacles in the way of the authorities of the Far Eastern Republic in their struggle against those bandits?

3. Does the Japanese Government consider it necessary to establish friendly neighbourly relations with the Government of the Far Eastern Republic?

4. Does the Japanese Government consider it necessary to protect the interest of the Japanese merchants in the territory of the Far Eastern Republic in the only possible way, namely, to enter into a commercial treaty with the Government of the Far Eastern Republic?

5. Does the Japanese Government intend to withdraw from the territory of the Far Eastern Republic its army of occupation, the presence of which in Russian territory, as has been sufficiently proved during the last three years, has in no way helped to establish friendly relations nor to secure any privileges for Japanese residents, but on the con-

ment and the Japanese Command that it will refrain from supporting the self-styled "Government" of Merkuloff at Vladivostok. The Government of the Far Eastern Republic is convinced that this adventure is doomed to failure.

2. The Japanese Command shall immediately return all arms to the Russian militia and the People's Defence Guard.

3. The Japanese Command shall not prevent the Government officials from arresting criminals and taking other necessary measures to restore order.

4. The Japanese Military Command shall not put any obstacles in the way of the local authorities of the Far Eastern Republic nor of the district Emissary of the Government Mr. Kozevnikoff, the Assistant Minister of Foreign Affairs who has been ordered to proceed to Vladivostok, in restoring order and protecting the lives of the foreign citizens residing in the territory of the Far Eastern Republic.

trary has been the source of a growing hatred toward Japan?

We hope that for the sake of a better understanding between the two peoples, the Japanese Government will not delay to give straightforward and definite answers to all these questions.

We believe that the Japanese Government will choose a more righteous course in its relations with the Russian people. We firmly believe that a definite end will be put to the shameful policy of usurpation and violence and that the Japanese Government will enter into just and sincerely friendly relations with the Russian people. The Government of the Far Eastern Republic is convinced that such a settlement of the matter will be to the benefit of the Japanese people. While welcoming the friendly settlement of outstanding matters the Government of the Far Eastern Republic categorically demands:

1. A definite statement of the Japanese Govern-

The Government of the Far Eastern Republic solemnly declares that if the Japanese Command does not interfere with the domestic affairs of the Republic the foreigners in the Maritime Province will enjoy absolute safety and the same hospitality as has been accorded to them in the territory which has already been freed from the yoke of the intervening forces.

The Government of the Far Eastern Republic which has been elected by the Constitutional Assembly on behalf of the entire population of the Russian Far East solemnly declares that no adventures similar to that which has occurred at Vladivostok will force the Government to forego its efforts to carry into effect the will of the people as expressed in the fundamental laws of the Republic enacted by the Constitutional Assembly. The Government will suppress all bandits from whatever quarter they may come and will defend the sovereign rights of the Russian people in the Far East, hoping to have

the support therein of the entire civilized world. And if the Japanese Government fails to give a straightforward and definite answer to the questions set forth by the people of the Russian Far East and if it refuses to comply with the lawful demands of the Russian people, the people of the Russian Far East and their Government will not share the responsibility for the continuation of the civil war and for the lack of order in the Maritime Province, placing the responsibility upon the Japanese Command because of their constant interference with the domestic affairs of the Far Eastern Republic, and the Government and people of Japan will be held accountable before the entire civilized world. We are firmly convinced that the Japanese Government will immediately discuss the abnormal conditions with the Government of the Far Eastern Republic and will in cooperation with it arrive at a decision satisfactory to both.

Ignatius L. Yourin,  
Minister of Foreign Affairs of the  
Far Eastern Republic.

Chita, June 2, 1921.

Copy true:

Secretary of the Mission of the  
Far Eastern Republic to China.

ハ〇五 六月八日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在北京極東共和国使館團員來館シテ六月二日  
附同国外相ヨリ日本政府宛公文ヲ提出及東京  
ニ電報方依頼ノ件

第四三〇号

(六月九日接受)

在北京齊多政府代表者附書記官六月七日來館極東共和国外務大臣「ユーリン」ヨリ日本政府ニ宛テタル長文ノ電報ヲ接到シタルガ右ハ同政府ニ於テ特別重キヲ措ク公文ニシテ日本政府ノ切実ナル考量ヲ願ヒタク尙内容ハ直チニ東京ニ電報アリタキ旨陳述シ「ユーリン」ヨリ閣下宛六月二日附長文ノ書簡ヲ館員ニ渡シ歸リ去レリ右要領左ノ通

公文ハ浦潮ニ於ケル今般ノ政変ガ日本軍憲ノ反政庁派擁護ニ依リ發生セルコトヲ事實ヲ挙ゲテ説明シ齊多政府ガ人民ノ代表機關トシテ「セメノフ」一派ヲ庄迫シ安寧秩序ノ回復ニ努メ居ル苦衷ヲ述ベ從來此努力ガ日本軍憲ノ為メ妨害サレタル事例ヲ挙ゲ日本軍憲ガ昨年四月二十九日ノ協定<sup>(註)</sup>ニ戻リ種々専横ノ振舞アルコトヲ説キ日本政府ノ責任ヲ問ヒ次イデ齊多政府ハ日本ガ從來ノ干涉政策ヲ捨テテ相互平等主義ノ上ニ兩國国交ヲ樹立センコトヲ希望シ居リ日本ガ此際齊多政府ニ対スル要望ヲ率直ニ世界ノ前ニ宣言センコトヲ求メ進ンデ日本政府及人民ハ軍憲ノ行動ヲ是トスルヤ日本政府ハ「セメノフ」「ウンゲルン」ノ如キ叛徒ノ庇護ヲ今後モ継続セントスルヤ日本ハ齊多政府ト友好關係ヲ開クヲ必要トセザルヤ日本ハ通商条約ヲ結ブノ意ナキヤ日本ハ軍隊ヲ全部撤退スル意志ナキヤノ五点ニ就キ明瞭ナル回答ヲ求メ日本ガ齊多政府ト友好的關係ヲ結ブコト双方ニ利益ニシテ齊多政府ハ頗ル之ヲ希望シ居ル旨ヲ高調シ尙(一)日本ハ「メルクーロフ」ノ自称浦潮政府ヲ援助セザルヲ宣言スルコト(二)日本ハ解除シタル民兵ノ武器ヲ直ニ返却スルコト(三)日本ハ露国官憲ノ犯人逮捕ヲ妨害セザルコト及(四)日本ハ

今般齊多政府ヨリ派遣サルル外務次官「コジュエウニコフ」ノ浦潮ニ向フヲ阻害セザルコトヲ嚴重ニ要求スル旨ヲ述ベ若シ日本軍憲ガ右干涉ヲ為サザルニ於テハ齊多政府ハ沿海州在住日本人ノ安全ヲ保障スベク尙齊多政府ハ有ラユル妨害ヲ排シ人民ノ意志ヲ實現スル決心ヲ有シ居リ日本ト速ニ商議ヲ開キタキ旨ヲ述ベアリ  
右公文郵送ス尙本公文ハ当館ニ交付サルト共ニ「デルタ」通信ヲ以テ發表サレ本日ノ各英字新聞ハ全文ヲ掲ゲテ世間ノ注意ヲ引キタリ  
政務部ヘ電報セリ

註 日本外交文書大正九年第一冊下卷七三七文書參看

ハ〇六 六月九日 在浦潮菊池政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

コゼウニコフトノ談合ノ為島田副領事ヲハル  
ビンニ派遣ノ件

第三四〇号

往電第三三六号ニ関シ「コゼウニコフ」六月六日夕「ボグラニチナヤ」発哈爾賓ヘ引返シ同地ニテ当軍並ニ政務部ニ対スル事務ニ付談合シタキ希望アル由在「ボグラニチナ

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件 八〇七 八〇八

八四四

「軍憲ヨリ軍へ電報アリタリ就テハ軍側ノ希望モアリ六月八日夕島田ヲ哈爾濱ニ出發セシメタリ特ニ御追認ヲ請フ松島へ転電セリ

註 六月六日菊池政務部長発内田外務大臣宛第三三六号ヲ省略セルガ該電ハ「コゼウニコフ」ヨリ我軍司令部ニ対シ政務部ト交渉案件アルニ付島田ヲ「ボグラニチナヤ」ニ派遣セラレタシト申出デタルニ対シ軍司令部ヨリ政務部員近ク哈爾濱出張ノ答ニ付其際部員ト面談ノ期アルベシト回答セル旨等ヲ報告セルモノナリ

八〇七 六月二十日 在ハルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

コゼウニコフノ代理トシテソーモフ来訪シ日  
本ノ西北利亚撤兵ノ条件等ニ付島田副領事ニ  
問質ノ件

第一一九号 (六月二十一日接受)

政務部宛第二四号

島田ヨリ左ノ通

第一三号

六月十九日コゼウニコフノ希望ニ依リ会见ノ答ナリシ処約

島田へ左ノ通伝ヘラレタシ

西北利亚ノ政局ニ対スル当方ノ態度ニ付テハ目下考慮中ナルガ貴官ガ今浦潮ニ帰ルトキハ「コゼウニコフ」ハ直ニ「チタ」ニ向テ去リ我方ト「チタ」トノ連絡ヲ失フニ至ルヤモ計ラレザルニ付貴官ハ追テ何分申進スル迄其地ニ在リ我方ヲ「コムミット」スルコトナク従来通り「コ」トノ接触ヲ保タルベシ

八〇九 六月二十四日 在ハルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛

島田副領事ヨリ極東共和国外務次官コゼウニ  
コフトノ会談ニ付報告ノ件

附屬書 六月二十一日山内総領事発在浦潮菊池政務部長  
宛公領機密第五号写

機密第三一号

大正十年六月二十四日 (六月三十日接受)

在哈爾濱

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

島田副領事ト「コゼウニコフ」トノ会談ニ関スル件

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件 八〇九

東ノ時刻ニ至リ書記官「ソーモフ」来訪「コゼ」ノ会见期日延期ヲ請フト共ニ「コゼ」ノ意ヲ受ケテ来リタリトテ頗ル困リタル面持ニテ(一)体日本政府ハ齊多側ヨリ如何ナルコトヲセバ撤兵シクルルヤ其条件ノ概要ニ関シ貴官(島田)一己ノ私見ニテモ宜敷キニ付聞カサレタシ(二)浦潮日本軍ハ右ニ関シ如何ナル態度ナルヤ(三)日本軍護衛ノ下ニスル「コゼ」ノ浦潮行ヲ可能ナラシムルニハ如何ナルコトヲセバ可ナルヤ等質問アリタルガ小官ハ(一)ニ対シ屢々「コゼ」ニ対シ申込ミタル通自分ハ斯カル重大ナル任務ヲ有シ居ラズ日本屢次ノ声明ヲ見ラルレバ自ラ判明スベシ又(二)ニ関シテハ曩ニ「コゼ」氏ニ申シタル通ニシテ其後菊池部長ヨリ変リタル訓令ヲ受ケ居ラズト答ヘ置ケリ

(長春領事館經由六月二十日後九・三〇)

八〇八 六月二十四日 内田外務大臣ヨリ  
在ハルビン山内総領事宛(電報)

島田副領事ニ対シ引続キハルビンニ留リコゼ  
ウニコフトノ接触継続方訓電ノ件

第四七号

本件ニ関シ大正十年六月二十一日附公領機密第五号ヲ以テ在浦潮菊池政務部長宛郵送致置候間右写御参考迄茲ニ御送付候 敬具

(附屬書)

山内総領事発在浦潮菊池政務部長宛公信写

島田副領事ト極東共和国外務次官コゼウニコフトノ会談ニ関スル同副領事ノ報告公信第一号郵送ノ件

公領機密第五号

大正十年六月二十一日

在哈爾濱

総領事 山内 四郎

在浦潮

政務部長 菊池 義郎殿

公信第一号(島田副領事ヨリ山内総領事宛報告)

六月二十一日「コゼウニコフ」懇談シタキ旨申出デタルニヨリ之ニ応ジタルニ同人ハ既ニ齊多政權ヨリ日本最大ノ資本家ニシテ自己ノ商業的利益ノ外ニ国家的見地ヨリ私權ヲ得ントスル会社例ヘバ三井ノ如キモノニ現今野守氏ト交渉シツツアルヨリ更ニ広大ナル即チ薩哈噠州沿海州一円ノ森

八四五

林其他ヲ真ノ「コンセツション」ノ形ニシテ交付スルコトトシ其他漁業問題ヲ議シ之ト引換ヘニ日本ノ撤兵ヲ断行シテ貰フコトトスルハ如何勿論右ハ交渉ノ基本ニシテコレ丈ケヲ以テ足ルベキニ非ザルベキモ斯クノ如クニシテ撤兵問題ヲ論議スルコトヲ得ベキヤ否ヤ一応菊池氏ニ伝ヘラレンコトヲ請フト申出デタリ

右ニ対シ小官ハ自分ハ他用ヲ以テ目下当地滞在中ニシテ元ヨリ貴官(コゼ)ト交渉スルガ如キ権限ナキハ勿論ナルモ御希望ニ基キ菊池部長ニ取次グベシサレド到底回答ハナカルベシト思考スト答ヘ一体貴官ハ沿海州政權ヲ如何ニ見ラルルヤ六月十四日「メルクロフ」政權ハ多数ノ森林区ヲ露人名義ニテ長期ヲ以テ払下ゲ裏面ニハ多数ノ日本資本家存在セル由ナルガ之ニ対スル斉多ノ態度如何ト問ヘルニ斉多ハ「メルクロフ」一派ヲ叛徒ト認ムルガ故ニ其ノ払下ニ係ル森林ハ仮令裏面ニ日本人アルモ絶対ニ之ヲ認メザルベシ後來日本国政府ハ此等日本人ノ利益ヲ保護シテ斉多ニ抗議ヲ提出スル様ノコトナキヲ信ジテ疑ハズ蓋シ日本軍駐屯地内ニ出来タル政治団体ノ払下ゲタル利権ニ付日本ガ保護の態度ヲ採ルカ如キハ他国ヲシテ日本ハ利権ヲ得ンガ為ニ政

治団体ヲシテ利権払下ヲ行ハシメタリト言ハシムベキ虞アルベケレバナリト云ヘリ次デ彼ハ小官ノ沿海州政權觀並斉多觀察如何ト問ヘルニ対シ小官ハ一己ノ私見トシテ恐ラク何人モ目下形勢ノ推移ヲ注視シ居レルモノト思考ス要ハ着々民主主義ヲ実行スルヲ必要トスベシ其意味ニ於テ目的行為ノ善惡巧拙ヲ問ハズ折角斉多ニ赴キタル多数日本実業家ガ何等得ル所ナクシテ斉多ヨリ帰来スルガ如キ我特務機關ノ通信杜絶日本將校旅行ノ阻止セラルルガ如キ其他諸般ノ情報ヲ綜合スルニ余ヲシテ率直ニ言ハシムレバ斉多ハ唯言フノミニシテ更ニ実行セズ看板ヲ掲グルノミニテ与ヘズト言フベク要スルニ外国人ヲシテ斉多ニハ誠意ナキモノト思ハシムルノ現状ナルハ誠ニ遺憾ナリ斉多先ヅ進デ其誠意ヲ披瀝スルコト必要ナリト思考セラルト答ヘタリ

「コゼ」ハ次デ斉多ハ日本軍暫時駐兵ノ儘日本ト通商關係ヲ開始スルノ準備アリト言ヘルニヨリ小官ハ一体貴官ハ撤兵問題ト云ヒ通商開始問題ト云ヒ之ヲ日本ニ提議スルノ委任權ヲ斉多ヨリ得テ来レル義ナリヤト反問セルニ彼ハ格別然ルニハ非ザルモ自分ハ唯個人トシテ斯ク申スノミ本来支那領土内ニ於テ此種協議ヲ行フガ如キハ支那ニ対シテ彈ル

ヲ要ス差当リ露領内何レカノ地例ヘバ「イマン」ノ如キ所ニ於テ政務部代表者ト交渉シタキモノナリ實際東支鉄道附近地ニ於テ支那ガ横暴ヲ極ムルニ至リテ以来日本ガ北滿ノ撤兵ヲ躊躇セラルルト同時ニ之ト緊密ノ關係アル沿海州ノ駐兵ガ容易ニ撤退セラルベキモノニ非ザルコトハ自分等モ之ヲ了解ス斉多ハ日本ト飽迄親善關係ニアラザルベカラザルコトヲ真ニ了解セリ而シテ日露兩國ガ仲良キコトハ米國ニモ將又歐洲諸國ニモ好マシカラザルニヨリ兎角日露間ヲ疎隔セントスル諸般ノ運動、情報等アルモ吾人ハ之ニ迷ハサルベキニ非ズ斉多政權ハ其内容ノ如何ニ拘ラズ兎モ角莫斯科政權ノ承認ト後援アルニアラズヤ此ノ一事ヲ以テシテモ西比利亞ニ生ズル他ノ政治団体例ヘバ「メルクロフ」「セメノフ」等トハ雲泥ノ差アルニアラズヤ「メ」ト云ヒ「セ」ト云ヒ將又「ウンゲルン」ト云ヒ事ヲ挙グルニ外國軍ノ威力ヲ利用シ既ニ革命ニヨリテ亡ビタル旧政体ヲ復興セントスル運動ニ過ギズシテ之ヲ以テ一党一派ノ反對運動ト看做スベキニ非ズ彼等ニシテ「ハバロフスク」「ブラゴウエ」斉多等苟クモ外國干涉ノ行ハレザル地域ニ於テ事ヲ挙ゲタリトセンカ又相當敬意モ表シ得ベシ露國ノ勞役階級

ハ今ヤ覺醒シテ旧時ノ愚民ニ非ズ「メ」ヤ「セ」カ彼等ノ為ニナルベキ政治ヲ行フコトナカルベキヲ信ジ居レリ云々ト語り更ニ日本國民ハ露國ニ共產主義實現シ居リ之ガ宣伝ヲ恐レ居ルガ如キモ露國ニハ共產主義行ハレ居ラズ又斯カル制度ガ現今ノ露國ニ於テ実行不能ナルハ論ヲ俟タザルナリ若シ夫レ真ニ「ソヴィエト」政府ニ於テ共產主義ヲ実行シ之ヲ日本ニ迄宣傳セントスルノ底意ヲ有シ居レリトセバ「ソヴィエト」政權ハ日本軍ノ「イルクツク」辺迄駐屯スル様故意ニ事態ヲ作リタル上露國地方民ヲシテ漸次日本語ヲ修得セシメ其ノ後ニ於テ日本兵並日本人ノ間ニ漸次共產主義ヲ宣傳シ一挙ニシテ日本ヲ赤化スルヲ得ベキナリ之ヲ敢テセザル所ニヨリテ「ソヴィエト」露西亜ガ日本ヲ赤化スルノ意思ナキヲ知ルニ足ルト述ベタリ尙余談トシテ勘察加州「ソヴィエト」政權代官「クラルク」ノ「スレーチェンスク」ヨリ黒竜江ヲ下リ「ニコラエフスク」ニ出デ同地ヨリ日本汽船ヲ「チャーター」シテ勘察加ニ赴任シタキ希望ナル所日本船ハ之ニ応ズベキヤト問ヘルニ付小官ハ明答シ難キモ右ハ困難ナラント答ヘ尙小官ハ外國人ノ眼ニハ「ソヴィエト」政權カ交通關係上普通第三國ヲ通過セザル

ベカラザル如キ所ニ存在セル勘察加ヲ「ソヴィエト」政權領域ナリトシ殊ニ漁業協約ノ關係上我國ト密接ノ關係アル勘察加ヲ以テ菊池總領事ガ關係露国官憲ト漁業問題ニ付交渉ノ真最中ニ「ソヴィエト」領域ナリト声明スルニ至リタル露国側ノ態度ハ到底誠意アルモノトハ認め難シト思考セラルト嘲笑シ置ケリ

最後ニ別ルルニ臨ミ小官ハ重ネテ自分ハ他用ヲ以テ滞哈中ノ者ニシテ何等交渉ノ權能ナキ者ナルニ付誤解ナキ様頼ムト又御申出ノ件ハ菊池氏ニ伝フヘキモ回答ヲ期待セラレザル様念ヲ押シ置ケリ其際「コゼ」ハ浦潮行ノ件ニ付其後菊池氏ヨリ寛大ナル措置ナカリシヤト問ヘルニ付小官ハ変化ナシト答ヘ置ケリ要之彼ハ沿海州ニ入ルコト不能トナリ而シテ沿海州ヲ此儘放置セバ齊多ノ為益々不利益ナル状態トナルニ鑑ミ此際急遽根本的ニ撤兵問題ヲ論議シ漸次沿海州問題ヲ解決セントスルノ腹ニテ斯カルコトヲ云ヒ出シタルモノト看取セラル

本信写送付先

大臣、在支公使

日本ト極東共和国トノ協約

極メテ有力ナル筋ヨリ吾人ノ知り得タル所ニ依レバ極東共和国外務次官「コゼウニコフ」ト日本政務部部長島田氏トノ間ニ行ハレタル談判ノ結果及其間ニ締結セラレタル予備秘密協約ノ綱領左ノ如シ

一 極東共和国ハ現行漁業協約中ニ幾多日本ノ為有利ナル改訂ヲ加フルコトニ同意ス

二 極東共和国ハ共和国ノ森林並鉾山ノ富源ヲ利用スルニ際シ幾多特種ノ權利ヲ日本ニ提供ス

三 極東共和国ハ日本ト特別關稅條約ヲ締結ス右ニ依レハ日本ハ最モ有利ナル條件ニ置カルヘシ

四 極東共和国ハ日本ニ対シ樺太並薩哈連州ニ於ケル有ラユル「コンセツション」ヲ受クルニ付優越ナル權利ヲ日本ニ与フヘシ

五 極東共和国ハ其ノ水域ニ於ケル沿岸航行權ヲ日本ニ提供スヘシ

六 日本ハ沿海州地方並「ニコラエフスク」ヨリスル日本軍撤退ノ期限ヲ宣言ス且速ニ野戰交通部ヲ撤去シ又「エフゲニエフカ」「ニコリスク」並「ボグラニチナヤ」ノ諸

八一〇 六月二十四日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

日本及極東共和国間ニ予備秘密協定成立セリ  
トノ新聞報道ニ付報告ノ件

附屬書 ノウオスチ、ジーズニ紙所載記事訳文

公第一九八号 (六月三十日接受)

大正十年六月二十四日

在哈爾濱

總領事 山内 四郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日本齊多間秘密協約成立說ニ關スル件

本件ニ關シテハ往電第一二五号ヲ以テ及報告置候処所謂日本齊多秘密協約ナリトテ掲載セラレタル新聞記事別紙ノ通訳出及進達候間御査閱相成度此段申進候 敬具

本信写送付先

在浦潮政務部長、在支公使

(附屬書)

一九二一年六月二十四日發刊「ノウオスチ、ジーズニ」紙所載  
記事訳文

区域ヨリ総テノ軍隊ヲ撤退ス、派遣軍全部ノ撤兵ハ總計四個月以上ヲ越エサルヘシ

七 日本ハ浦潮並其他ノ沿海州各地ニ必要數ノ共和国民警ヲ入ルルコトヲ共和国ニ許シ且又沿海州庁ノ事務復活ヲ妨ケサルヘシ

八 日本ハ共和国ニ対シ財政經濟上ノ援助ヲ与フヘシ之カ為メ直ニ日露財政經濟委員會ハ事務ヲ開始ス該委員會ハ先ツ以テ借款並紙幣發行權ヲ有スル銀行ニ關スル問題ヲ審議スヘシ

九 日本ハ將來共和国領域内ニアル自己ノ官衙ニ於テ共和国政府ノ取調ニ基キ反政府行為団体ニ参加シタルノ証跡アル人物ヲ傭聘セサルヘシ

十 日本ト共和国トハ相互敬愛主義ニ基キ相互優待ノ途ニ出ツヘシ

本協約最後ノ認可ヲ得ルタメ「コゼウニコフ」ハ至急齊多ニ島田氏ハ浦潮ニ赴クヘシ

八一 六月二十九日 内田外務大臣ヨリ

在浦潮菊池政務部長宛 (電報)  
コゼウニコフガ日本軍ノ保護下ニゲロデコウ

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望関係一件 八二二

又ハエフゲネフカニ赴キ度トノ申出ニ対スル

措置振回示ノ件

第九七号

貴電第三七二号<sup>(註)</sup>ニ関シ

島田ヘ左ノ通り伝ヘラレタシ

「コゼウニコフ」ガ強イテ我軍ノ保護下ニ「グロデコウ」又ハ「エフゲネフカ」ニ赴クモ昨今「セ」「カ」兩派神經昂奮シ居ル際ニモアリ万「コ」ノ一身ニ危害起リ惹イテ我齊多関係ニ悪影響ヲ及ボス様ノコトアリテハ面白カラザルニ依リ貴官ハ「コ」ニ対シ此等事情ヲ説明シ今少シク事態判然スル迄哈爾賓ニ待チ居ル方得策ナルベキ旨勸告シ尙我方ニ申入レ度キ事項ハ何時ニテモ貴官ニ於テ取次グベキ旨申添ヘラレ度シ

註 六月二十七日菊池政務部長発内田外務大臣宛第三七二号ハ

「ゴゼウニコフ」ガ日本軍保護下ニ「グロデコウ」又ハ「エフゲネフカ」ニ赴キ度旨在ヘルビン島田副領事ニ申出デタルニ付同副領事ヨリ菊池政務部長ニ指示ヲ仰ギタル電報ノ転電ナリ

ルコトトシ一ハ齊多トノ引懸ヲ保持シ得ベク他ハ露領内ニ於テ「コゼ」ノ申出ヲ聞クコト宣伝ノ激シク且支那領タル哈爾賓ニ於テスルヨリモ好都合ナリトセズヤ「コゼ」ノ沿海州行ニ対シ想像説情報等現ハルル処目下日本官憲側ニテ彼ト接触スルハ本官唯一人ニ過ギズ而シテ小官ハ苟モ我軍護衛ノ下ニセバ途中完全ナル監視取締ヲ為シ得ベント信ズ就イテハ山内総領事宛貴電第六二号ノ如ク軍ニ於テ大体右ニ異議ナキ模様ニ付右様御取計相成リ如何カト思考ス本官ハ「コゼ」ガ「ウスリー」駅ニ赴カバ帰浦スベキ旨「コゼ」ニ言明シ同人モ之ヲ諒トシ居レリ尙右実現セラレ飯ニ何人カ「ウスリー」駅「コゼ」方ニ赴クコトアリトセムカ通信上ノ便利身体ノ安全等ニ関シテハ哈爾賓ニ於テ「コゼ」ト接触ヲ保ツヨリ遙ニ不利ノ形トナラム將又当地ニ於テ政務部長若クハ小官「コゼ」ノ交渉ニ応ジ得ル様ノコトトモナラムカ「コゼ」ハ沿海州入ヲ思ヒ止ルベシ

(長春領事館經由七月一日后一一、三五)

大臣ヘ転電セリ

八五〇

八二二 七月一日

在ヘルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

コゼウニコフヨリ島田ニ対シウスリー駅又ハハバロフスクニテ日本側ト交渉シ度旨申出ノ件

第一三四号

(七月二日接受)

政務部宛第三一号

島田ヨリ左ノ通

第一九号

六月三十日「コゼ」ト会见「コゼ」ハ「エフゲネフカ」行ヲ思ヒ止リ「ウスリー」駅ニ赴キ同地又ハ「ハバロフスク」ニ於テ我方ト交渉シタシ自分ハ日本側ニ対シ撤兵ニ関聯スル条件申出ヲ為スノ準備アリ島田ガ之ニ応ズル権限ナキヲ遺憾トス自分ハ妻子出迎ノ為天津ニ赴キ五日後ニハ帰哈スベク夫レ迄ニ「ウスリー」駅行ニ就キ日本軍護衛ヲ得ラルベキヤ浦潮ヘ問合ヲ請フト申出デタリ卑見ニ依レバ哈爾賓ノ一般気分ハ「コゼ」並本官ノ滞在ニ就キ不便ナリ而シテ当地ノ気分ガ右様ナルハ尤モ千万ナリト思考スルノ充分ノ理由ヲ有ス故ニ「コゼ」ノ「ウスリー」駅行ヲ護衛ヲ附ス

八二三 七月四日

在ヘルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本軍西比利亞撤退ノ条件トシテチタ側ガ日本ニ讓步セントスル諸事項ヲソーモフヨリ島田ヘ申出ノ件

第一三七号

(七月五日接受)

政務部宛第三三号

島田ヨリ左ノ通

山内総領事宛貴電第六五号大臣訓令ノ趣旨七月二日「コゼ」ニ伝ヘタルニ同人ハ同日家族出迎ノ為山海関ヘ赴キ其留守中参事官「ソーモフ」(年約六十、齊多ニ於テ憲法其他ノ法案作成ニ参与セシモノ)七月三日小官ニ会见ヲ求メ「コゼ」ガ公式ノ提議ヲ為スニ先立チ同人ノ依頼ニ依リ一通リ齊多側ノ考ヲ申述ベタシトテ「コゼ」ノ書記官「グレイ」立会ノ上大要左ノ通り語レリ

齊多ハ日露両国ノ為重大関係アル日本軍撤兵ヲ希望スルモノナルガ故ニ此際撤兵ヲ条件トシテ幾多ノ讓步ヲ特ニ日本ニ対シテノミ為スコトトシ諸外国ニ共通ノ諸条件ハ後廻トシタキ考ナリ但何等国民ノ自負心ヲ侵害スル条項ハ之ヲ避

ケタシ

一、過激宣伝ヲ為サザル保障

右ニ就キ単ニ保障ノ声明ニテハ不安ナルベキニ付鮮満国境ニ於テ出入取締其他ノ措置ヲ講ズルノ必要アルベク其実行方法ニ就キ別ニ協議スルヲ要ス

二、共和国内主要都市ヲ全部解放シ日本臣民ノ土地永借權ヲ認ムルコト

租借ハ約六十年迄トス都市以外ノ土地ハ農民ノ利害ニ多大ノ影響ヲ及ボスベキニ付永租ヲ許ス能ハズ又土地ノ所有權ハ都市内ト雖当分ノ外國人ニ許サズ

三、森林鉾山其他ノ利權ヲ日本臣民ニ与フルコト

四、紙幣發行權ヲ有スル日露國際銀行ノ設立

五、沿岸貿易ヲ日本臣民ニ許可スルコト

六、北部樺太永租ノコト

北部樺太ハ「ニコラエフスク」事件ト関連シ日本ニ於テ讓与若クハ売却ヲ希望セラルベキモ右ハ国内政策上実行不能ニ付日本国籍ノ法人ニ対シ北部樺太全部ノ永租權ヲ与フルコトトシタシ期限ハ差当リ六十年トス

七、浦潮要塞ヲ廢シ少数守備隊ヲ置クコト

#### 政務部宛第三四号

島田ヨリ左ノ通

貴官宛山内総領事發電報第三三号ニ関シ

「ソーモフ」七月四日来訪前日ノ件ニ関シ尙詳細ニ述ベムトテ大要左ノ通語リ東京ヘ伝達方依頼セリ

一、漁業協約改訂問題 撤兵ニ関スル交渉問題ト別個ニ漁業協約ハ之カ特殊ノ協約ニシテ改訂ノ時期既ニ到来シ居レルニ顧ミ此ノ際日露両国ヨリ速ニ委員ヲ任命シ之ヲシテ南滿洲又ハ關東州内ノ一地ニ会合審議セシムルトセバ可ナラム若シ齊多ニ於テセバ一層可ナラム勘察加州ハ漁業協約ニ重大ナル關係アリ依テ齊多ヨリ莫斯科ニ交渉シ莫斯科政府ヨリモ委員ヲ特派セシメ右會議ニ参加セシムベシ露国側ハ漁業問題ニ付日本ノ立場ヲ充分考量ニ入レ能フ限り讓歩スベシ尙沿岸航行權問題ハ漁業問題ト密接ナル關係アルヲ以テ同問題モ同時ニ審議スルヲ可トスベシ

二、森林問題

森林問題ニ関シテハ漁業協約ノ例ニ倣ヒ協約ヲ締結スルモ可ナリ日本ト接近セル沿海州沿岸地方、「デカストリー」、黒竜江下流地方ニ存在セル森林ハ特ニ日本人ニノミ許スコ

要塞ヲ廢シ何等軍隊ナキ時ニ於テハ何時第三国ノヲ占領シ日本ノ為脅威トナルヲ保シ難シ故ニ守備隊ヲ置クヲ要ス又朝鮮トノ国境ニ接シタル地方ニハ全然軍隊ヲ置カザルベシハ、漁業協約ノ改訂

従来国防上ノ關係ニ因リ日本人ニ許可セザリシ漁区アリシモ共和国ハ其必要ヲ認メザルニ依リ更ニ多ク開放許可スベシ但漁業監視權ハ共和国ニ在ルコトトスベシ

九、勘察加州問題

「ソヴィエト」領域トナレル勘察加ノ漁業ニ就キ日本ガ我「ソヴィエト」代表者ト交渉不能ナリトセバ共和国ニ於テ代理シテ日本ト協議スルヲ得ベキカト思考ス大臣ヘ転電セリ

(長春領事館經由七月四日後九、三〇)

八一四 七月五日

在ハルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ソーモフ七月四日漁業協約改訂、森林、鉾業、  
關稅ノ諸問題ニ付チタ側ノ意向ヲ島田ニ陳述  
ノ件

第一三八号

(七月七日接受)

トトセム又烏蘇里地方ニ於テハ外國人ニ森林ノ払下ケヲ為サザルベキモ木材ヲ売下クルニ際シ特別ノ便宜ヲ日本人ニ与フルコトトスベシ殊ニ「デカストリー」附近ノ森林ハ「デカストリー」黒竜江下流ニ向ケ湖水ヲ經由シテ運河ヲ開クノ義務ヲ附シ之ニ代フルニ多大ノ特典ヲ与ヘ且非常ナル長期ヲ以テ日本人ニ払下グベシ又森林払下条件ハ大体三井合名ニ許シタルモノヲ基本トスベキモ將來蝦夷松、樺松「ヤマナラシ」ノ如キ日本向キノ木ノミ日本人ニ伐採セシメ歐洲輸出向キノ種類例ヘハ紅松、樺、松、杉等ノ如キハ除外スルモ可ナリ但シ黒竜州ノ森林ハ他国人ニ許スコトアルベク又黒竜江ヨリ何人モ自由ニ筏ヲ流シ得ルノ權利ハ共和国ノヲ保持スベシ

三、鉾業問題

余ハ日本ガ共和国ノ如何ナル地方ニ於テ如何ナル鉾業ヲ希望スルヤヲ明カニセズ依テ日本側ヨリ指定セラレムコトヲ望ム問題ノ中心トナルベキハ「シホタアリン」山脈ナリヤ採金業モ勿論許可スベシ

四、關稅問題

自由港問題ハ反對論アリテ実行不可能ナリ又共和国トシテ

ハ関税収入ヲ重大視ス但シ浦潮附近ノ露西亜領及「デカストリー」「ニコラエフスク」丈ヲ「ポルトフランコ」トスルコトハ満足不能ナラザルベシ共和国ノ希望ハ此ノ際日本ト関税協約ヲ結ブニアリ帝政時代ノ関税率ハ莫斯科「ロツジ」「ペトログラード」乃至工業ヲ保護スル趣旨ニテ作ラレタルモノナレバ今日ノ共和国ニ取リテハ不都合ナリ願クバ日本商工業者ノ大会ニ於テ共和国ガ関税ヲ如何ニセバ可ナルヤ審議ノ上日本側ノ希望ヲ遠慮無ク申出デラルル様致シタシ右申出ニ基キ審議スルヲ実行上便利ナリトス

「ソーモフ」ハ以上四個ノ問題ニ付日露經濟會議ヲ開催シテハ如何他国ノ乗ゼザル内ニ速ニ実行ニ着手スルヲ可トセシ諸般ノ交渉ヲ一時ニ行ハムトセバ大袈裟トナルニ依リ小規模ニテ部分的ニ着手スルヲ適當ナリトス云々ト語り尙明五日引続キ申出ヲ為スベシトテ引キ取レリ当日本人ハ漁業協約關係書類日本齊多十箇条秘密協約ヲ掲載セル新聞ヲ手ニシ居タリ

外務大臣ヘ転電セリ

(長春經由七月六日前九、五〇)

八一五 七月六日 在ヘルピン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ソーモフ七月五日北樺太租借、沿岸航行權、  
日本撤兵ノ順序等ノ問題ニ関スルチタ側ノ意  
向ヲ島田ニ申出ノ件

第一三九号 (七月七日接受)

政務部長宛第三五号

島田ヨリ左ノ通

前電ニ引続キ七月五日「ソーモフ」来訪「グレイ」書記立  
会ノ上左ノ通り語り東京ヘ伝達方申出デタリ

五、北樺太租借問題

日本ニシテ經濟上ノ見地ヨリ北樺太ヲ得ムトノ目的ナレバ共和国ハ日本側三分ノ二露国側(主トシテ政府)三分ノ一ヲ有セル法人「シンジケート」ニ期限五、六十年ノ租借ヲ許シ之ヲシテ炭坑(現ニ個人ノ有セルモノヲ除ク)鉾山、油田、漁業、森林業等ニ従事セシメテ其収入ヲ計リ其他右法人ニ鐵道ノ敷設港灣ノ整理、郵便電信ノ經營、紙幣發行ヲ許シ日露兩國国民ハ対等自由ニ居住セシムベシ但北樺太ノ主權ハ依然露國ニ屬シ共和国ハ協定數ノ軍隊ヲ有シ協定関

税率ヲ定メ特殊ノ行政ヲ行フコトトシ尙日本ハ軍艦ヲ置キ其他軍隊ニ関スル協定ヲ結ビ得ベシ若シ日本ニシテ国防上ノ見地ヨリ北樺太ヲ得ムトスルナレバ共和国ハ韃靼海峡防備中立義務等ニ就キ軍事協定ヲ締結セム惟フニ日本ハ北樺太ガ元日本領土ナリシニ顧ミ國民ニ對スル説明上之ヲ得ムト欲スルナルベシ吾人ハ其立場ニハ固ヨリ同情ス然レドモ割譲売却ハ到底國民議會ノ承認ヲ得ベカラズ依テ法人組織租借案ニ依ルコトト致シタシ尤モ割譲又ハ売却案ヲ議スル

点ハ他ノ諸条件ヲ輕減シ得ルモノトセバ割譲売却モ論議ノ余地ナキニアラズ最後ニ現ニ在ル日本軍隊ハ北樺太問題ノ解決ヲ見ル迄駐屯セシメラレ更ニ差支ナシ

六、黒竜江下流「ウドスキー」地方問題

黒竜江下流ノ漁業ニ付協定ヲ為スベシ又共和国ハ浦潮要塞ヲ廢スル結果「デカストリー」港ニ少数ノ沿海防備用艦船ヲ置クコトトス而シテ「デカストリー」ガ自由港トナリ日本臣民多数居住シ森林事業ニ従事スルコトナルトモ之ヲ妨ゲザルベシ其他此ノ地方ニ関スル日本側ノ希望ニ応ゼン

七、沿岸航行權問題

本件ハ漁業協約改訂問題ト同時ニ論ズベキモ現今露國義勇艦隊ガ仏國ノ援助ニ依リ「コンスタンチノープル」ノ恣マトスル所トナリ居ルニ就イテハ此際日本ノ斡旋ニ依リ共和国政府仏國日本等ノ合弁会社ヲ組織シ義勇艦隊船ヲ利用シ之ヲシテ沿岸航路ヲ開カシムルヲ得バ大ニ好都合ナリ

八、河川航行權問題

黒竜江烏蘇里河ニ依ル日本船舶航行問題ニ就イテハ共和国ハ何等研究シ居ラズ聞ク所ニ依レバ松花江ニ関スル日支兩政府間ノ交渉モ進行渺々數カラズ黒竜江ニ関シテモ支那ノ態度ヲ俟ツテ決スルノ他ナシ但シ現今日本臣民ガ露國人ノ名義ニテ有セル船舶ノ買上ゲニ関シテハ共和国ニ於テ講究スルノ意アリ尙浦潮ガ純然タル商港トナラバ東支、烏蘇里兩線ニ於ケル輸出通過貨物劇増シ総テ黒竜江松花江ニ日本船舶ヲ有スルノ必要ナキニ至ルベシ寧ロ通過貨物ニ對スル協定ヲ結ブ方得策ナラン

九、其他ノ問題

過激宣伝、朝鮮人取締問題其他過日来述ベ来リ居タル共和国政府讓歩事項以外ニ日本側ヨリ希望ノ事項アラバ承リタシ

十、日本軍撤兵問題

兩委員長ニ予備協約成立前又ハ成立後（共和国ハ早キヲ望ム）日本ハ撤兵ヲ声明セラレ先ヅ「エフゲネフカ」ヨリ「ニコリスク」ノ北ノ駅ニ到ル間ヲ撤兵シテ共和国正規軍ニ引渡シ次デ「ボグラニーチナヤ」ヨリ「ニコリスク」附近駅ニ到ル間ヲ撤兵シ次デ「グロデコウォ」ノ難関ヲ消滅セシメ其ノ結果日本軍ハ一時「ニコリスク」以南ノ地方ヲ占領スベシ斯クセバ交渉ノ進行ヲ容易ナラシムベク次テ談判ノ進捗ニ伴ヒ蘇城、<sup>ベヤン</sup>「オリガ」ノ線ヲ撤退シ結局日本軍ハ浦潮ヨリ「オケアンスカヤ」ニ到ル地方並「ポシエツト」地方ニ残留スルコトナリ而シテ右ハ兩國ノ交渉完了スル迄保障ノ意味ニテ引続キ駐兵シ居ラレ差支ナシ又樺太方面ノ駐兵ハ左程人心ヲ刺戟セザルニ依リ是亦談判終了迄置カレ差支ナシ「ポシエツト」附近駐兵問題其他ニ付明六日引続キ述ベタシ云々  
大臣ヘ転電セリ

八一六 七月七日 在ハルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

ソーモフ七月六日國際銀行設立、借款、鮮人

入ルルハ素ヨリ差支ナシ

十三、「ポシエツト」地方鮮人取締ノ件

「ポシエツト」地方ノ露鮮国境ニ鮮人多数居住スル時ハ自然朝鮮ニ対スル宣伝ノ根拠地トナルノ虞アルニ付同地方ニハ鮮人ノ居住ヲ禁ジ国境ノ取締ヲ極メテ厳ニシ単ニ露人日本人中確實ナル職業ヲ有セル者ノミ居住ヲ許スコトトセバ如何又露領内ニ居ル鮮人ニ対シテハ共和国ハ「ブリヤート」族ニ対スル如ク自主權ヲ認メズ単ニ其國語ヲ以テ教育セララルノ權利ノミヲ認メ居レルガ一体露領居住鮮人ノ国籍問題ヲ此際明瞭ニ致シタシ將又日本政府ハ鮮人ノ露領ニ出ヅルヲ欲セザル義ナルヤ承知致シ度シ共和国トシテハ彼等ガ良好ナル農民労働者ナルニ鑑ミ彼等ニ露国人同様ノ權利ヲ附与スルト共ニ又同様ノ義務ヲ負担セシメントス兎ニ角鮮人問題ハ重大ナル価値ヲ有ス云々 七日引続キ会見ノ答大臣ニ転電セリ

（長春中継七月七日後九、五九）

八一七 七月八日 内田外務大臣ヨリ  
在ハルビン山内総領事宛（電報）

ソーモフ島田間交渉内容ヲ極秘ニ附スル様訓

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望關係一件 八一七 八一八

取締ノ問題ニ付チタ側ノ意向ヲ島田ニ申出ノ件

第一四二号 （七月八日接受）

政務部宛第三六号

島田ヨリ左ノ通

七月六日「ソーモフ」ヲ往訪前電ノ続キ「ソーモフ」ガ「グレイ」立会ノ上申出デタル事項ハ

十一、國際銀行設立ノ件

共和国ト日本トヲ発起者トセル國際銀行設立案ヲ議スル為兩國ノ専門家ヲシテ予備會議ヲ開カシメ度シ場所ハ滿洲里駅附近トスベキカ總テ會議ノ場所ハ日露戰爭講和會議ノ例ニ從ヒ小ナル土地ニ於テ為ス方五月蠅カラズ共和国ハ現金ノ外目下國立銀行ニ使用セル各地ノ建築物全部、森林、関税、漁業收入等ヲ担保トシテ提供セン國際銀行成立セバ國立銀行ヲ廃止スベシ  
十二、借款ノ件

共和国ハ鐵道ノ大々の修繕其損失ノ補填其他種々ノ支出ニ充ツル為日本ヨリ借款ヲ起サントス本件ニ付テモ前項同様兩國専門家ノ予備會議ヲ開キ度シ尙支出監督ノ為日本人ヲ

令ノ件

第五四号

貴電第一三三七号第一三三八号第一三九号及今後本件ニ関スル交渉内容ハ凡テ極秘ニ附セラレ度シ島田ニ伝ヘ政務部長ヘ転電アリ度シ

八一八 七月八日 閣議決定

浦潮ニ於テ極東共和国側ト通商問題商議ノ形式ニ於ケル非公式交渉開始実行ニ関スル件

帝國政府ハ速カニ浦潮ニ外交官ヲ派遣シ極東共和国側ト通商問題商議ノ形式ニ於テ非公式交渉ヲ開始セシメ極東ノ政情安定ト帝國ノ利益進捗トヲ計ルノ必要ナルコトハ曩ニ五月十三日閣議決定セル所ナリ其後「メルクローフ」一派ハ「カツベリ」殘党ノ後援ニ依リ浦潮、「ニコリスク」地方ノ政權ヲ掌握シタルノ觀アルモ未ダ獨立政權トシテ實力ヲ有セズ其勢力ハ日本軍駐屯区域内ニ限ラレ一朝日本軍撤退セバ直ニ倒壊スルニ至ルヘキハ彼等自身ニ於テモ自覺シ居ルモノノ如ク「セメノフ」一派ニ至リテハ其勢力一層脆弱ナルヲ免レス從テ帝國政府ハ此際毫モ既定方針ノ実行着手

ヲ延期スルノ必要ヲ認メザルノミナラズ躊躇逡巡スルニ於テハ結局露国人及列国民ノ疑惑ヲ招キ我ニ不利益ナル形勢ヲ馴致スルノ虞ナキニアラズ最近ニ於ケル米國政府及英國労働党ノ態度ノ如キ偶々其一端ヲ窺フニ足ル依テ帝國政府ハ「チタ」政府外務次官「コゼウニコフ」ガ目下哈爾賓ニ在リテ頻リニ浦潮ニ於テ我方ト交渉セムコトヲ切望シ居ルニ顧ミ此際予テ政務部長ニ内定セル松島總領事ヲ同部長ニ任命シ急速同地ニ赴任セシメ「コゼウニコフ」ノ希望ヲ容レ我軍保護ノ下ニ浦潮ヘ来ラシメ先ツ彼ノ提議セントスル所ヲ政務部長ニ開陳セシメ一面該会见ガ浦潮地方ノ政情ニ及ボス影響ヲ注視シ全般ノ形勢交渉ヲ進ムルニ便宜ナルニ於テハ前記閣議決定ノ方針ニ從ヒ彼我ノ間ニ交渉ヲ進行セシムルコト然ルベシ尤モ右交渉開始ニ際シ「メルクローフ」一派乃至「セメノフ」「カツペリ」一味ニ對シテハ大局上「チタ」側トノ妥協ヲ勸告シ尙「チタ」政府ヲシテ彼等ノ生命ノ保障ヲ与ヘシメ生活安定ノ方法ヲ講ゼシムルコトニ付テハ我方ニ於テ相当尽力スヘキコト並ニ万一彼等ニシテ我交渉ヲ妨ゲ或ハ乱ヲ起シ我居留民ニ危害ヲ加ヘ我撤兵ヲ妨害スル等ノ行為ニ出ヅルニ於テハ斷シテ之ヲ假借セ

ザルベキコトヲ諒解セシムルヲ要ス

八一九 七月八日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ソーモフ島田ニ對シチタ側ノ希望ヲ述ベ尚日  
本政府ノ希望ヲ承知シ度旨申出ノ件

第一四三號 (七月八日接受)

政務部宛第三七號

島田ヨリ左ノ通

七月七日「ソーモフ」ト会见彼ハ前電ニ基キ左ノ通語レリ  
齊多側ノ希望トシテ左ノ通

一、沿海州北樺太兩地方ヨリノ撤兵

二、北滿、蒙古ニ於ケル露國側利益ノ尊重

三、露國義勇艦隊船舶ノ還付方ニ關スル日本側ノ援助  
過般來自分ノ述ヘタル以外ニ日本側ヨリ希望アラハ承知シ  
タキ旨東京ヘ伝ヘラレタシ又通商開始ニ關シ共和國ノミヲ  
市場トスルニ於テハ日本実業界ノ為大シテ利益トナラサル  
ヘキニ付幸ヒ勘察加漁業協約改訂ノ際非公式ニ「ソヴィエ  
ト」政府側代表者参加スルヲ機トシ共和國經由「ソヴィエ  
ト」領域ニ對スル日本商品ノ輸入ニ付協議スルヲ得ベシ以

(附屬書)

七月七日附山内總領事発菊池政務部長宛公領機密第八号  
公領機密第八号

大正十年七月七日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎

在浦潮

政務部長 菊池 義郎殿

島田ヨリ

七月六日小官「ソーモフ」往訪車内ニテ本月発往電第三六  
号ノ件ニ付会谈ノ際列車「ボーイ」ノ居ラザルニ乗ジ突如  
無斷ニテ一米人入り来リ小官ノ面前ニテ「コゼ」ト島田ト  
ノ間ニ秘密協定成立シタル由ノ新聞記事ハ事実ナリヤト  
「ソーモフ」ニ質ネ「ソーモフ」ハ「グレイ」ノ通訳ニヨ  
リ然ラズト答ヘ次デ彼ハ何故ニ「コゼ」ハ浦潮ニ行カザル  
ヤト問ヒ之ニ對シ「ソ」ハ日本軍ハ「コゼ」ノ武装護衛隊  
ノ沿海州ニ入ルヲ好マズ且全然個人ノ資格ニテ「コゼ」ノ  
浦潮ニ赴クヲ許スベキモ公然ノ資格ニテ赴クヲ許サズト答  
ヘ且彼ノ姓名ヲ問ヒタルニ「シカゴ、デイリー、ニュー

上ヲ以テ大体当方ノ申出ヲ了セリ「コゼ」近日南滿ヨリ帰  
来ノ筈ニ付其ノ上重ネテ申出事項ヲ取纏ムヘシ  
大臣ヘ転電セリ

(長春中継七月八日午後七時)

ハ二〇 七月八日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

島田ソーモフ会谈ニ關連シ米人記者等ニ島田

ヨリ種々説明ノ件

附屬書 七月七日附山内總領事発菊池政務部長宛公領機

密第八号写

機密第三七号 (七月十三日接受)

大正十年七月八日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大正十年七月七日附在浦潮菊池政務部長宛公領機密第八号  
拙信写送付

件名

島田副領事ト「ソーモフ」トノ会谈ニ關スル件

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望關係一件 ハ二〇

ス」ノ記者「ウッド」ナリト答ヘタリ、此時彼「ウッド」ハ始テ小官ニ挨拶シタルニヨリ本官ハ「ウッド」ニ対シ日本側ノ立場ヲ明確ニシタシトテ日露協定ニヨリ武装団体ノ存在ヲ許サザルコト及予テ政務部長御来示ノ趣旨ヲ体シ適当ニ説明シ「ソ」ノ説明ヲ否定シタルニ「ウッド」ハ斯ノ如キハ甚ダ無理ナル話ナリ仮ニ御互ニスルモ「グロデコウ」ヲ通過スル際何時「セメノフ」軍ニ引下サルルヤモ図ラレザルニアラズヤ護衛ノ必要ナルハ論ヲ俟タザルナリト述ベ次デ民警ノ件ニ言及シ彼ハ「グロデコウ」ニハ民警ナキニアラズヤト嫌味ヲ言ヒ其ノ言動ヨリスルニ彼ハ我方ニ対シ甚ダ面白カラザル態度ナリト認メタリ本官ハ又即日齊多ヨリ帰来ノ「アボト」「デービス」一行ヲ往訪シ一行ガ「コゼ」ノ浦潮行ニ関シ「ウッド」ト同様ノ考ヲ有シ居ラレテハ面白カラズト思考シタルニ付誤解ナキ様序ノ形ヲ以テ説明シ置ケリ、会談中「アボト」ハ本官ニ対シ浦潮地方ニ居ル日本軍ハ武装シ居レリヤト問ヘルニヨリ勿論然リト答ヘタルニ彼ハ然シ日露協定ニハ如何ナル武装団体ヲモ許サズトアルニハアラズヤト言ヒタルニヨリ本官ハ右ハ日本軍及民警以外ヲ指スモノナリト云ヘリ、「アボト」ハ親

シク浦潮ニアリテ目撃セシモノナレバ実状ヲ知ラザル管ナク本官亦確ニ英語ノ間違ニモアラズ又彼ノ戯談ニモアラザル様信ズルモ何故「アボト」ガ斯カルコトヲ言ヒシカラ諒解ニ苦シム所ナリ、当日「デービス」ハ本官ニ対シ齊多ニハ目下金銀貨流通シ居リ食料品モアルニ付外国人ニハ不自由ナシ露人ノ状況ハ大体不良ナリト云ヒシ外詳細ヲ語ラズ、「クレイン」公使ハ七月二日齊多発西行セリ公使ハ露語ヲ解シ二十数回露国ヲ旅行シタル露国通ナリ、我一行モ二日齊多発二十五時間ニシテ満洲里ニ到着シ汽車運行ノ案内外速ナルニ驚ケリ、尙一行ハ浦潮經由満鮮經由ノ何レヲ採ルヘキカ未定ナリト語リ最後ニ不遠齊多ニ於テ島田ト御目ニ掛ルヘシ自分ハ齊多カ好キトナレリト云ヒ再ヒ齊多ニ赴クヤノ口吻アリタリ

写送付先 外務大臣

八二一 七月九日 内田外務大臣ヨリ  
在ハルビン山内総領事宛(電報)

ソーモフヨリ島田ヘノ申出ニ付秘密ヲ保持スル様ソーモフニ申入方島田ニ訓電ノ件

第五五号

往電第五四号ニ関シ島田ヘ左ノ通り

貴官ハ「ソーモフ」ニ対シ同人ノ申出ハ目下外務省ニ於テ考慮中ナルカ本件ハ我方ニテ極秘トシテ取扱ヒ居ルニ付「チタ」側ニテ誠意ヲ以テ本件ヲ処理スル意思ナラハ新聞ハ勿論第三者ニ対シ敵ニ秘密ヲ守ルノ要アリ若シ外間ニ洩ラシ或ハ宣伝ニ利用スル様ノコトアラハ交渉ヲ開始スルコト困難ナルヘキ旨申入レ置カレ度シ  
政務部長ヘ転電アリタシ

八二二 七月十一日 在ハルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

島田副領事ソーモフヨリノ申出ニ関スル要約  
ヲ作成シソーモフ之ヲ確認ノ件

別電 同日山内総領事宛内田外務大臣宛電報第一四八号

右要約

第一四七号 (七月十二日接受)

政務部宛第三九号 極秘

島田ヨリ左ノ通り

七月九日「コゼ」ヲ往訪シタルニ彼未ダ山海関ヨリ帰来セ

一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望關係一件 八二二

ズ依テ「ソーモフ」参事官ト会見シ七月三日乃至七日ノ間彼ガ本官ニ対シ為セル申出ニ就キ本官ヨリ「レジュメ」ヲ作成シ「ソ」ニ読ミ聴カセタル処数箇所訂正ノ上右ニ相違無キ旨ノ言質ヲ得タリ右「レジュメ」ハ別電第四〇号ノ通ニシテ譲歩条項第十五並希望条項第四ハ当日「ソ」ガ追加シタルモノナリ「ソ」ハ右「レジュメ」ヲ重ネテ東京ニ打電アリタキ旨申出デタルニ依リ本官ハ本件貴官ノ申出ハ齊多政府並国民議會ノ承認ヲ得ルノ確信アリヤト問ヘルニ対シ見込アリト答ヘ尙經濟的条件ハ齊多本来ノ政策ニ顧ミ議會ノ承認容易ナリ只軍事上ノ事ハ多少ノ曲折アリ得ベシ殊ニ日本軍ノ為多大ノ打撃ヲ被レル黒竜州ノ選出議員ハ日本側ニ対シ反感大ナルニ付種々抗議スベシト思考ス又秘密条件ニ至リテハ政府ニ於テ各党派代表者ト内密打合ヲ為スノミニシテ政府其ノ責ニ任ズベク国民議會ノ承認ヲ必要トセズ將又日本齊多間交渉ニ際シテハ米國其ノ他ノ第三国ヨリ後日抗議等ノ起ラザル様注意スルノ必要アリト述ベ次デ本官ヨリ今回貴方ノ申出ニ関シテハ絶対秘密ニ附シ置カレ度旨申添ヘタルニ彼ハ勿論其ノ積リナリト答ヘタリ  
本電別電ト共ニ大臣ヘ転電セリ

(長春中継七月十一日後二、一〇)

(別電)

七月十一日在ハルビン山内総領事宛内田外務大臣宛電報第一四八号

ソーモフ参事官ヨリ島田副領事ヘノ申出ノ要約

第一四八号

(七月十二日接受)

政務部宛別電第四〇号

島田ヨリ左ノ通、極秘ノ取扱

七月三日乃至七日「ソーモフ」参事官申出

(甲) 齊多側讓歩条項

一、過激宣伝ヲ為サザルノ保障

保障ニ関スル声明、鮮満国境出入取締其他実行方法攻究ノ

為協議ヲ必要トス

二、共和国主要都市地方

日本臣民ノ土地長期租借承認、期限約六十年、農地ハ長期

租借不可、土地所有權ハ認メズ

三、漁業協約ノ改訂

日露両国民ニ限り許可ノコト、漁区開放其他ニ付十分讓歩

スベシ、本交渉ハ撤兵交渉ト別個ニ開始スルヲ得ベシ兩國

委員任命南滿洲関東州又ハ朝鮮ノ一地ニ會議スルコト、勘察加漁業ニ関スル限り「ソヴィエト」政府委員公式(前ニハ非公式ト云ヒシモノ)参加、沿岸貿易モ同時ニ研究ノコト

四、森林「コンセッション」問題

林業協約モ可ナリ但シ林業協約ハ初メテノコトニシテ且長期ノモノニモアリ複雑ナル問題ナルヲ忘ルベカラズ目的区域ハ沿海州日本海岸地方「デカストリー」黒竜江下流地方ニシテ日本人ノミニ許可烏蘇里地方ニ於テハ「コンセッション」ヲ許サザルモ短期伐採權其他ノ便利ヲ与フヘシ租借条件ハ大体三井案ヲ基本トス日本人ノ区域ニ於テハ或ル種類ノ樹木ノ選定伐採ヲ許可ス

五、鉱業問題

日本側希望区域ヲ承知シタシ採金業許可

六、関税(脱)地方ノ自由港論ハ不可但シ小部分的ノ自由港ハ強テ不能ニアラサルモ困難ナリ共和国ハ関税収入ヲ重要視ス関税協約締結ヲ希望ス日本側ヨリ対案提出アレバ右ニ依リテ審議セン

以上ノ經濟事項ニ付日露經濟會議(不明) 各部ニ分チ小

規模ニテ速ニ開始スルコト必要ナリ

七、北樺太ノ租借

「シンジケート」租借株三分ノ二日本、三分ノ一共和国、

期限五六十年、採炭、鉱業、油田、漁業、林業從事但シ既

得(不明)權利ヲ除ク鉄道港灣整理(不明)、紙幣發行許可

可日露人対等居住許可、主權ハ共和国ニアリ共和国ハ協定

数ノ軍隊ヲ保存シ特殊行政ヲ行ヒ関税率ヲ協定ス、軍事上

ノミニ関スル協定、日本軍艦ノ碇泊、韃靼海峡ノ防備、中

立義務、割讓売却ハ不能但シ之ヲ議スル為他ノ条件ヲ輕減

セラルレバ(不明)モ滿更不能ニアラズ

八、黒竜江下流「ウドスキー」地方問題

下流漁民ノ利益保護ノ趣旨ニテ漁業協定締結「デカストリ

ー」ノ軍港計画但シ日本人ニ迷惑ヲ及ボサズ、他ニ日本側

希望ヲ聴キタシ

九、沿岸航行權

漁業協約ト同時ニ論及、露仏(仏無キヲ望ム)日合弁会社

ノ義勇艦隊船利用沿岸航行ヲ希望ス

一〇、河川航行權

烏蘇里、黒竜江ノ日本船航行問題ハ考ヘ居ラズ日本人所有

船買上可ナリ寧口浦潮經由北滿輸出通過貨物問題ヲ論ズル方得策カ

一一、國際銀行設立

共和国ト日本トヲ發起者トス、兩國財政専門家ノ予備會議

開催、場所ハ滿洲里附近、共和国ハ現金、國立銀行建物提

供、林業、漁業、関税収入等ヲ担保トス、國立銀行廃止

一二、借款

用途、鉄道修繕、損失補填其他、兩國財政専門家ノ予備會

議ヲ要ス、日本人監督ヲ入ルルハ差支ナシ

一三、「ボシェット」地方問題

第一項ト關係アリ宣伝ノ根拠地タルベキ地方村落ニ鮮人ガ新ニ來タルヲ禁止ス若シ來タル時ハ此等ハ「イマン」黒竜

江方面ニ送ルコト、市内ニハ日露鮮人ノ居住許可、国境取

締勵行ニ付協定ヲ要ス、鮮人ノ自治權ヲ認メズ露領居住鮮

人ノ国籍問題ヲ明確ニシタシ、日本ハ鮮人ノ露領行ヲ好マ

ザルヤ、共和国ハ彼等ヲ歓迎ス但シ露国人同様ノ權利義務

ヲ附与負担セシメントス

一四、浦潮要塞廢止

第三国ノ占領ヲ恐ルルガ故ニ少数ノ軍隊ヲ置ク「ボシェッ

ト」地方ニハ国境守備兵ノ外軍隊ヲ置カズ

一五、烏蘇里鐵道、東支鐵道ヲ第三国ニ譲与又ハ租借セザル義務（七月九日追加）

(2) 共和国側ノ希望条項

一、撤兵

共和国ノ申出条件ニ日本ガ承諾ヲ与ヘ予備協約ノ基本条項ニ署名シタル際撤兵ノ声明ヲ望ム撤兵ノ終了ハ協約全部署名ト同時トス、軍事委員会開催、先ヅ「エフゲネフカ」ヨリ「イポリトフカ」ニ到ル線ヲ撤退シ共和国正規軍ニ交付、次デ「ボグラニーチナヤ」「ニコリスク」附近駅間撤退、右ハ交渉ノ進行ヲ良好ナラシム、更ニ「スーチャン」「オリガ」線撤退、其結果浦潮、「オケヤンスカヤ」「ボシエット」地方ニ日本軍残留、之ハ交渉終了迄残留シテ可ナリ、樺太方面亦可ナリ日本軍駐在地ニハ共和国軍隊州長ハ暫時要ラズ但役所ハ要ルベシ

二、北滿蒙古ニ於ケル共和国ノ利益ノ尊重

三、義勇艦隊汽船利用方ニ付日本ノ斡旋ヲ乞フ

四、日本向共和国輸出品ニ対スル日本側関税ニ付協定（七月九日追加）、輸出品ハ主トシテ木材、蜂蜜、蠟、農産物

等（終）

外務大臣へ転電セリ

（十二日前〇、一五長春中継）

八二三 七月十二日 在ハルビン山内総領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

ソイモフヨリ島田ニ申出事項ノ要約ニ関スル

コゼウニコフノ意見島田ヨリ報告ノ件

別電一 同日山内総領事発内田外務大臣宛電報第一五

〇号

コゼウニコフノ申出事項

二 同右電報第一五一号

ソイモフ案ニ対スルコゼウニコフノ意見

附記 松平欧米局長意見

第一四九号 （七月十三日接受）

政務部宛第四二号

島田ヨリ左ノ通

七月九日「コゼウニコフ」南滿ヨリ帰哈十日小官彼ヲ往訪シ余談ニ時ヲ費シ何等「ソイモフ」参事官申出ノ件ニ言及セズシテ引取ラムトスルヤ「コゼ」ヨリ十一日会見シ度キ

旨申出デタリ同日「コゼ」来訪シタルニ付本官ハ劈頭貴官発山内総領事宛電報第五五号ノ趣旨ヲ篤ト説明シタルニ彼ハ齊多ニ報告スベシトテ書キ取り本件ヲ絶対秘密ニ付スベキハ御話迄モ無ク勿論ノ事ナリト言明セリ次デ「コゼ」ハ「ソイモフ」ト小官トガ作成シタル「レジュメ」ノ逐条説明ニ移リ前提トシテ本件交渉ハ兩國主権国民ノ自負心ヲ害セズ努メテ相互的ニシテ且米國其ノ他ノ第三国ヨリ後日指ヲササレザル様又齊多政府ヲ驚カス様ノ条項無キ様致シタシトノ希望ヲ述べ日本モ亦兩國永久ノ親善關係ヲ期シテ共和国ニ接セラルベキヲ信ズト云ヒ「レジュメ」ヲ別電第四三号並第四四号ノ如ク取捨セリ終リニ「コゼ」ハ「ソイモフ」ノ申出ニ係ル詳細ノ事項ハ公式ノモノニハアラザルモ頗ル重キヲ為スベキモノニ付将来交渉ニ入リタル際協議ノ資料ト為スヲ得ベキハ論ヲ俟タズ自分ハ十二日「ソイモフ」ヲ齊多ニ遣ハスベシ而シテ齊多側ヨリハ右以外ニ差当リ申出事項無キモ報告ノ為齊多ニ赴キタシ尙「コゼ」ハ小官トノ連絡ヲ絶タザル為例ヘバ十五日間ト期間ヲ定メ該期間経過後再び哈爾濱ニ於テ兩人会合ノ事ト致シタシ右東京ヘ打電アリタシト申出アリタリ当日本官ハ「コゼ」ガ長文ノ

書キ物ヲ携帯シ居リタルハ過日来「ソイモフ」ガ本官ニ為シタル申出事項ヲ詳細記載シアルヲ目撃セリ右ハ「ソイモフ」ガ齊多ニ携行スルモノト思考セラル

大臣へ転電セリ（長春經由七月十三日後三、〇〇）

（別電一）

七月十二日在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第一五

〇号

コゼウニコフ申出事項

第一五〇号 （七月十四日接受）

政務部宛別電第四三号

島田ヨリ左ノ通

七月十一日「コゼウニコフ」申出事項（「コゼ」本官トモ之ヲ書取レリ）

一、兩國相互的ニ宣伝ヲ為サザルコト

日本及共和国ハ現存国体ヲ侵スベキ党派団体ヲ相互的ニ援助セザルコト、秘密条約トス、

保障ノ声明、実行方法ニ関スル詳細ノ研究ハ協議ニ依ル

二、日本臣民（鮮人ヲモ含ム）不動産建築ノ為共和国主要都市ニ於ケル土地長期租借權承認

都市トハ浦潮斯德、「ニコリスク」「ウスリスキー」約六十年

### 三、漁業協約改訂

主義上日露両国民ニ限り漁業許可、漁業条約全部ヲ取纏メ之ヲ改訂スルヲ為日本、共和国、「ソヴィエト」ノ三国委員ノ會議ヲ開キ決定スルコト、撤兵ニ関スル交渉ト別個ニ開始シ得ルコト、場所ハ旅順トス

### 四、森林問題

露国々民ト同様日本臣民ニ許可ス（事実ハ日本人ノミトナルベシ）区域ハ沿黒竜州（齊多ノ行政区）日本海沿岸一帯「デカストリー」黒竜江下流地方、或ハ日本人ノミニ許可ノ「コンセクション」トスベキカ、林業協約ト云ヘバ日露両国民ニ許可ノ事トナルガ故ニ寧ロ「コンセクション」ノ方日本人ノ為有利ナラズヤ

五、双方ノ為有利ナル特別関係協約ヲ締結スルコト

六、北樺太「コンセクション」ニ付協定

特別協定ニ依ル日本「シンデケート」ニ「コンセクション」ヲ与フ但シ「シンデケート」共和国双方ノ為有利ナル条件ヲ備フルヲ要ス、株三分ノ二日本、三分ノ一共和国政府

七、日本船ノ河川航行権ハ（脱）喧マシカルベシ、松花黒竜両江ニ在ル日本人所有船舶ノ買上ゲハ齊多政府之ヲ行フベシ但シ公平ナル評価ニ依ル

八、日本ヨリ有利ナル条件ニテ借款ヲ得ルコト

九、在本邦露国大使館、領事館、建物書類金銭財産ノ引渡ヲ受クルコト、同時ニ共和国内ニ在ル日本使館ヲ日本ニ引渡スベシ

十、日本ニ於テ露国政府、公共団体、「コペラチーフ」ノ有セル財産ノ引渡ヲ受クルコト

十一、日本ニ在ル露国義勇艦隊船舶並財産ノ引渡

十二、日本ノ撤兵

以上ノ外齊多側希望中多少追加アルヤモ知レズ

十三、日本、共和国双方全權ノ會議場所、大連

十四、會議ハ来ル八月十五日ヨリ開始ノコト

十五、會議ハ絶対ニ秘密トス、宣伝ハ絶対ニ禁止ス、両国委員ノ任命ヲモ秘密トスベシ

以上東京ヘ電報ヲ請フ（終）

大臣ヘ転電セリ

（長春中継七月十三日後六、〇五）

### （別電二）

七月十二日在ハルビン山内総領事兼内田外務大臣宛電報第一五一号

ソーモフ案ニ対スルコゼウニコフノ意見

### 第一五一号

（七月十三日接受）

政務部宛別電第四四号

島田ヨリ左ノ通

「ソーモフ」案ニ対スル「コゼ」ノ意見

「ソーモフ」案ノ詳細ハ大体ニ於テ會議ノ際協議資料ト為シ得可シ

### 讓歩事項

第一宣伝ノ件ハ秘密条約トスルコト必要ナリ

第四森林問題ニ付日本ガ「コンセクション」ヲ得バ烏蘇里地方ノ木材ハ必要ナシト思考ス

第五鉱業ニ付日本ハ如何ナル地方ニ何ヲ希望セラルルヤ日本ニ於テハ余リ興味ヲ有シ居ラレズト思フ米人ニ採金業ヲ許可シタルヤノ説アルモ右ハ閣議ノ承認ヲ得居ラズ

第六関税ニ関シテ自由港論ハ問題トナラズ

第十二国際銀行ニ関シ借款問題（不明）ハ本件銀行ノ必要

ナシト思考ス共和国ハ当初ハ臨時金貨ニテ輸入貨物ニ対スル支払ヲナスベシ日本ニ取り右銀行必要アリヤ特ニ条件中ニ入ルルノ必要ナキニアラズヤ

第十三鮮人取締ノ件ハ第一宣伝ノ部ニ入レテ考究ノコト

第十四浦潮要塞廃止ノ件ハ特ニ掲グルノ必要ナカル可シ海軍ハ無シ軍国主義ナラザル共和国ハ事実ニ於テ之ヲ廃止ス可シ況ンヤ日本軍艦アリテ監視セラルルコトト思考スルニ於テヤ

第十五鉄道ノ件ニ付テハ「コゼ」ハ更ニ触レザリシニ付追テ確カム可シ尙「コゼ」ハ希望条項第二北滿蒙古ニ於ケル共和国ノ利益トハ何ヲ指サヤ了解ニ苦シム第四関税ノ件ハ「コゼ」案第五ニ入ルベシト云ヘリ

外務大臣ヘ転電セリ

### （附記）

松平欧米局長意見

通商其他ノ取極ニ関スル知多政府ノ非公式提案ニ対スル意見提示ノ件（七月）

### 一般的意見

一、本提案中ニハ森林鉱山等ノ利権許与ニ関スル項目ヲモ

包含セル処我方カ若シ本交渉ニヨリ何等独占の利益ヲ獲得スル場合ニハ門戸解放主義ニ抵触スルノ故ヲ以テ列国ノ抗議ヲ惹起スルコト明カナルノミナラス撤兵ノ代償トシテ此等利権ヲ要求セリトノ感触ヲ列国ニ与ヘ甚タ好マシカラサル結果ヲ見ルニ到ルヘク又秘密協約ニヨリ此種利権ノ獲得ヲ取極ムル場合猶何レカノ方面ヨリ暴露セラルルナキヲ保セス殊ニ知多側ニ於テ撤兵後或場合ニハ此種事項ヲ暴露且利用シ本件通商等ニ関スル取極ヲ根本ヨリ覆スノ虞ナキニ非サルヲ以テ本取極ニハ鉱業森林業其他各種産業ニ関スル從來ノ制限ハ一般外人ノ為之ヲ撤廃スルコトヲ約セシメ我方カ何等カノ独占の利益ヲ獲得スルガ如キ形跡ヲ存セシメサルコトトシ後日公表セラルトモ我公正ナル態度ニ対シ何レノ方面ヨリモ何等非議セラルルコトナキ措置置スルヲ必要ナリトス尤モ先方ニ於テ日本資本家ノ援助ヲ得タキ希望ナレハ日本企業団又ハ個々企業家ト先方トノ直接交渉ニ委ヌヘキナリ又此等利権ニ関シ外国側モ之ヲ希望スル場合ニハ我方ハ寧ロ悦ンテ之ヲ参加セシムルヲ得策ナリト思考ス国際銀行問題及借款問題ノ如キ利権許与ニ類スル事項モ本取極ヨリ切り離シ別途ノ交渉ニヨルヲ可トス

五、正式交渉ニ入ルニ先チ知多政府ノ労働政府ニ対スル独立の地位ヲ明確ニスルト共ニ交渉中好機會ニ於テ知多側ト協議シ本件通商其他ニ関スル取極ニ付労働政府ノ完全ナル了解ヲ得ルニ適當ナル方法ヲ講究スルコト

提案各条ニ対スル意見

(一、過激派宣伝防遏及不逞鮮人等ノ取締ニ就テハ先方提案ノ趣旨ニヨリ具体的取極ヲ為シテ可ナリ而シテ細目ハ別協定ニ譲ルヘキモ大綱ハ本通商取極中ニ規定スルヲ要ス

(一記註外欄)

## 二、土地租借問題

土地所有權ハ外人ニ許スルノ困難ナルハ之ヲ諒トスルモ此際農業地ノ租借權ヲモ獲得シ置クコト緊要ナルヲ以テ主要都市ニ於テノミ租借權ヲ得ルニ満足スルヲ得ス即都市以外ノ地域ニ於テモ露国農民ノ利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ租借ヲ要求スルコト必要ナリ但シ場合ニヨリテハ六十年以内ノ短期租借又ハ露国人トノ合弁ニヨル等ノ制限ヲ附スルモ可ナリトス

## 三、漁業協約ノ改訂<sup>(註)</sup>

通商取極ニハ漁業協約ヲ改訂シ更ニ多クノ漁区ヲ解放

二、本件提案中ニハ我方既定方針タル

(一)極東共和国カ非共產の民主制度ヲ確実ニ行フコト

(二)帝国ノ条約上正当ニ取得セル權利並ニ帝国臣民ノ生命財産及既得權ヲ尊重スルコト

(三)外人ノ出入国、住居、營業、産業及交通ノ自由

(四)外交官、領事官及武官ノ派遣、通信ノ確保

ニ関スル事項ヲ包含セサルニヨリ此等条項ハ我方ヨリ提議シ取極中ニ規定スルヲ要ス

三、先方提議ニ係ル樺太租借問題ハ尼港事件善後処分ニ関連スルヤ勿論ニシテ而モ諸般ノ關係上本件善後処分ハ可成速ニ之ヲ結了スルヲ得策トスルモ尼港事件ノ性質並ニ成行ニ顧ミ本取極交渉ニ於テハ暫ク尼港事件善後処分問題ヲ切離シ本来ノ問題ノミヲ決定スルコトトス尤モ交渉ノ經過ニシテ先方ノ誠意並ニ処理能力ノ充分ナルヲ適確ニ実証スルトキハ時宜ニヨリ通商取極ノ交渉ニ引続キ本問題ノ解決ニ歩武ヲ進ムルコト然ルヘキモ本件ハ別ニ考量スルコトトス四、勘察加等莫斯科政府ノ領域ニ編入セラレタル地域ニ付適當ナル機會ニ於テ知多側ト充分ノ了解ヲ遂ケ以テ此等地域ヲ極東共和国ニ復旧スルニ努ムヘシ

スルニ異議ナキコトヲ規定シ細目ノ協定ハ先方申出ノ如ク別箇ノ交渉ニ譲リテ可ナルヘシ

## 四、森林「コンセツション」問題

## 五、鉱山問題

右二項ハ前記一般の意見第一ノ趣旨ニヨリ通商取極ヨリ切り離シ關係日本人ト先方トノ直接交渉ニヨルヲ可トス

## 六、関稅問題

浦潮ヲ自由港トスル必要ナシ

関稅協約ハ成ル可ク速ニ之ヲ締結スルコトニ双方異議ナキコトヲ取極ニ規定シ細目ハ別交渉ニ譲ルヘシ

## 七、北樺太租借

前掲一般の意見第三所載ノ通り

## 八、黒竜江下流「ウドスキー」地方問題

尙右地方ハ薩哈噠派遣軍占領地域ニ屬スルヲ以テ本件ハ尼港事件ト一併後日解決スルヲ可トセン

## 九、沿岸航行權

外人ニ対シ露国人ニ対スルト同様沿岸航行權ヲ許セシムルコト困難ナル場合ニハ露国人ト合弁ノ形式ニ

於テ之ヲ外国人ニ許スル規定トナスモ可ナリ實際問題トシテハ先方提議ニ係ル日露仏ノ合弁会社ヲシテ露国義勇艦隊船舶ヲ利用セシムルコト亦不可ナラス

十、河川航行權

支那側ノ態度ハ之ヲ別問題トシ勘クトモ知多政府ノ関スル限り黒竜江及松花江ノ航行權ヲ一般外国人ニ許セシムルコト

十一、國際銀行設立

十二、借款

(二記註外欄)

右二項ニ関スル提案甚タ可ナルモ前掲一般の意見第一ノ理由ニヨリ別途ノ交渉ニヨルヲ可トス

十三、「ボシエット」地方問題

朝鮮人取締ニ関スル先方提案甚タ可ナリ此趣旨ニ依リ具体的取締ヲナシテ可ナリ但シ本項ハ提案第一項細目中ニ規定スルヲ可トス

朝鮮人ノ国籍問題及入露問題ハ朝鮮總督府ト協議ノ上之ヲ決定スルコト必要ナリ

十四、浦潮要塞ノ撤廃

要塞ノ撤廃、露軍配置其他軍事的施設ノ制限等ニ関シ

テハ日本側ニ於テ適當ト認ムル方法ニヨリ協議ノ上實施セシムルコト

(三記註外欄)

尙本規定ハ単ニ浦潮ニ関スルモノトセス閣議決定第六所載ノ如ク一般の規定トスルヲ可トス

(四記註外欄)

セサル義務

本項ハ更ニ考慮ヲ要ス

(五記註外欄)

一、撤兵

本件撤兵ハ取極締結後直ニ日本側ノ適當ト認ムル方法ニヨリテ之ヲナスコト 又樺太方面ノ撤兵ハ尼港事件善後処分トノ關係上別箇ノ問題ニ属スルコト前述ノ通り

二、北滿、蒙古ニ於ケル共和国利益ノ尊重

(六記註外欄)

露国ノ正当利益ヲ援護シ支那ノ不法侵害ヲ抑制スルコト固ヨリ不可ナシト雖對支政策上機微ニ渉ル点アルヲ以テ直ニ先方希望ノ趣旨ニヨリ取極中ニ規定スルコト宜シカラス但シ七月十二日哈爾濱發島田副領事追報ニヨレハ「コゼウニコフ」ハ本項提議ニ多大ノ興味ヲ有

(七記註外欄)

セサルカ如キヲ以テ先方ヨリ重ネテ提議セサル限り本問題ニ触レス取極ヨリ除外スルコト最モ可ナリ

三、義勇艦隊利用方ニ対スル日本ノ斡旋之レ先方提案第九ニモ關係アリ相當斡旋ヲ為スコト何等不可ナシ但シ之ヲ取極中ニ規定スルハ可ナラス

四、日本向輸出品ニ対スル日本側関稅ニ関スル協定

関稅協約締結ノ際一併協議スルヲ可トス

追記

七月十一日「コゼウニコフ」ハ在哈爾濱島田副領事ニ會見ヲ求メ前記知多側提案ニ就キ將來交渉ニ入ル際協議ノ資料ト為スヘキモノナリト云ヘルモ猶之ニ對シ批評ヲ加ヘ且ツ島田「ソーモフ」間ニ作成シタル提案要領書ニ取捨變更ヲ加ヘタリ而シテ其重ナル点ハ前添意見書中欄外註記ノ外

一、在本邦露國大使館領事館ノ建物書類金錢財産ノ引渡ヲ受クルト共ニ共和国ハ其国内ニ在ル日本使館ヲ日本ニ引渡スコト

(八記註外欄)

二、日本ニ於テ露國政府、公共団体「コペラチーフ」ノ有セル財産ノ引渡ヲ受クルコト

ノ条件ヲ新ニ提出シ且ツ知多側ハ希望条項トシテ猶多少ノ一八 極東共和国ノ日本国トノ接触希望關係一件 八二三

条件ヲ追加スルヤモ知レザルコトヲ留保シタルニアリ而シテ在本邦旧露國官公有財産ヲ歐露政府ト何等ノ協定ナク直ニ之ヲ極東共和国ニ引渡スノ不当ニシテ從テ右ニ関スル先方申出ハ之ヲ拒絕スベキハ勿論ナルガ兎ニ角右「コゼウニコフ」カ為シタル修正ハ(一)宣伝禁止ノ件ヲ秘密協約ニテ取極メタキコト(二)浦潮要塞廢止ヲ規定スルノ必要ナキヲ主張セルコト(三)北樺太ノ売却讓渡モ場合ニヨリ論議スルコト満更不能ニ非ズトノ点ヲ削リタルコト(四)烏蘇里地方材木松下ニ際スル特別便宜供与ノ提議ヲ撤回セルコト(五)「ソーモフ」ヨリ申出デタル希望条項以外尙多少ノ追加ヲナスコトアルベキヲ留保セルコト等ノ点ニ於テ「ソーモフ」申出ノ知多提案ニ於ケルヨリモ稍々強硬ナル態度ヲ示セリ

(注意)

右意見ハ先方ノ提案カ確定のナラサルニ顧ミ我方方針ノ概略ヲ記スルニ止リ交渉開始後具体的問題ニ関シ更ニ審議ヲ加ヘントスルノ趣旨ナリ 註通商局ハ左ノ修正案ヲ提出セリ

「三、漁業協約ノ改訂

通商取極ニハ、漁業協約ハ之ヲ改訂ス可ク從來漁業

經營者ノ不便トセシ点ノ削除及日露當業者ニ有利トナル可キ条項ノ加入ニ異議無キコトヲ規定シ、此等細目ノ協定ハ先方申出ノ如ク別箇ノ交渉ニ讓ル可キモ右交渉ハ本取極ノ決定後直ニ開始ス可キコトトス而シテ元來漁業協約ハ目下勞農政權ノ所轄ニ屬スト称スル勸察加方面ニモ及フモノナルハ勿論ナルニ付勞農側トノ交渉ヲモ必要トス可キモ右ハ知多側ヲシテ之ニ当ラシムルヲ可トス

(註 勸察加方面カ果シテ勞農政權ニ移管セラレタリヤ否ヤハ表面ハ別トシテ裏面ノ事情トシテハ甚タ疑ハシキ点アリ)

(欄外註記)

- 一 「七月十一日コゼウニコフハ本項ヲ秘密協約ニテ規定スルヲ必要トスト云ヘルモ本項ノ性質並ニ英独等ノ実例ニ照ラスモ本通商取極中ニ明定シテ差支ナキノミナラズ却テ必要ナリ
- 二 「コゼウニコフハ國際銀行設立ニ多大ノ興味ヲ有セズ」
- 三 「コゼウニコフハ本項規定ヲ特ニ掲記スル必要ナキ旨ヲ述ベタルモ將來ニ於ケル露國事態ノ變転ヲ慮リ本項ハ取極中

依リ他ノ場所ニテモ可ナリ都合如何カト問合セアリタルニ依リ小官ハ自分トシテハ当地ニ於テ十日後再會ノ件異議ナシ但シ自分ノ長官ニ於テ他ニ異議アル場合ニハ在知多三宅少佐又ハ倉重大尉ヲ經テ更ニ通知スヘキ旨回答シ置ケリ就テハ小官モ一応浦潮ヘ帰任致度御許可願上グ何分ノ御回訓

ニ明記スルコト必要ナリ

- 四 「コゼウニコフハ本項鐵道問題ニ触レザリシ由ナリ」
- 五 「細目取極終了迄一部駐兵等保障の手段ヲ講ズルコト」
- 六 「コゼウニコフハ本項共和国ノ利益トハ何ヲ指スヤ了解ニ苦シムト云ヒ興味ヲ採ラザリシ趣ナルガ然ル場合本項ハ当方ニ於テモ之ニ触レザルヲ得策トス」
- 七 「本項ト關聯シ旧日露協約ハ如何ニ処分シ去ル考ナリヤ(壇原)」
- 八 「之ハ實際上困難ヲ生ズル問題ナリ(壇原)」

八二四 七月十二日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

コゼウニコフ七月十二日ハルビン発チタニ赴

ク旨報告及請訓ノ件

第一五二号

(七月十三日接受)

島田ヨリ左ノ通

山内總領事發閣下宛電報第一四九号発信後十二日ニ至リ「コゼ」ハ突然「チタ」ニ赴クコトトシ其ノ出發間際ニ使者ヲ小官ノ許ニ遣シ十二日当地発「チタ」ニ赴クコトトセリ就テハ小官ト十日後哈爾賓ニ於テ再會シタシ小官ノ意見ニ

ヲ願フ

菊池部長ヘ転電セリ

(長春中継大正十年七月十三日前十一時二〇)